
トーピドキャプターXユーザーズマニュアル

コンパクトリアクティブ・ロードボックス、真空管アンプアッテネーター、マイキング・キャビネットシミュレーター、IRローダー、ステレオエキスパンダー



完全な取扱説明書電子版およびTwo notes Audio Engineeringのソフトウェアやハードウェア製品はアップデートの対象となります。最新バージョンの製品は、Two notes Audio Engineeringのウェブサイトからダウンロードできます。

このマニュアルでは製品Torpedo Captor Xについて説明し、その操作手順を提供します。製品を使用する前にこのマニュアルをお読みいただくこと強く推奨致します。このマニュアルの内容はきちんと検証されており、特に明記されていない限り、工場からの出荷時または当社のWebサイトからのダウンロード時点の製品状態を元に説明していると考えられています。

Two note Audio Engineeringは、下記組織の登録商標です。

OROSYS SAS社

76 rue de la Mine 34980 Saint-Gély-du-Fesc France

Tel: +33 (0)484 250 910

Fax: +33 (0)467 595 703

Contact and support: <http://support.two-notes.com> 連絡先及びサポート

Website: <http://www.two-notes.com> ウェブサイト

このドキュメントはOROSYS SASの独占的所有物です。製品開発のために、OROSYS SASは、事前の通知なしに技術仕様を変更、修正、および/または生産を中止する権利を留保します。

OROSYS SASはTorpedo Captor Xの不適切な使用に起因する偶発的またはその他の損害について責任を負いません。このマニュアルに記載されている安全上の注意を参照してください。このドキュメントのいかなる部分も、OROSYS SASの書面による許可なしに複製することは固く禁じられています。

すべての製品名および商標はそれぞれの所有者に帰属します。本書に記載されている製品名および商標はTorpedo Captor X製品の開発時に使用されたものであり、OROSYS SASとは一切関係ありません。

序文

1. 安全上の注意

製品を使用する前に、以下の情報を注意深く読み、留意する必要があります。このドキュメントは、ユーザーと製品の両方を保護するために重要であるため、安全な場所に保管してください。デバイスの誤動作が疑われる場合は、常に資格のある技術者のサポートを得てください。

1.1 読者への警告



感嘆符の付いた三角形囲みで、デバイスの正しい使用に関する重要なメッセージを強調表示します。

1.2 電源アダプター

主電源アダプターに必要なボルトと一致する必要があります。ボルト数を確認してください。そうでない場合は、ユニットを壁のコンセントに接続しないでください。これにより、主電源アダプター、ユニットが損傷し、ユーザーが怪我をする可能性があります。この製品は、雷が発生しているときには使用しないでください。雷の危険性のある悪天候の場合は、感電や火災の危険を減らすために電源アダプターを抜いてください。

本機に付属の主電源アダプターは、製品を購入した国の規格に準拠しています。交換が必要な場合は、標準規格に準拠した主電源アダプターをご使用ください。

1.3 安全使用条件

Torpedo Captor Xは、熱源や炎の近く、雨中や湿気の多い場所、液体の近くでは絶対に使用しないでください。ユニットを運搬する際には、衝撃を避けるよう注意が必要です。損傷が発生した場合は、資格のある技術者の作業が必要になります。湿気にさらされることは非常に良くありません。

1.4 清掃

清掃には常に乾いた柔らかい布を使用し、アルコールや溶剤は使用しないでください。ユニットを清潔に保ち、ほこりがたまらないようにしてください。日々のお手入れが必要です。

1.5 メンテナンス

すべてのメンテナンス作業は、OROSYS SASが認定したサービスセンターで行わなければなりません。自身でのユニットの分解、修理を行わないでください。

2. パッケージ内容

出荷されたパッケージには以下が含まれています。

- ・1 x Torpedo Captor X本体（保護スリーブ）
- ・1 x 主電源アダプター（プラグ交換可能）
- ・1 x USBケーブル
- ・1 x ミニジャック→5ピンMIDI (DINタイプA)ケーブルアダプター
- ・1 x クイックスタートガイド
- ・1 x ウェルカムカード

本マニュアル、Torpedo Remote、Torpedo BlendIRソフトウェアは、更新されることがあります。これらの製品の最新バージョンは、Two notes Audio Engineeringのウェブサイトからダウンロードできます。

3. 適合宣言

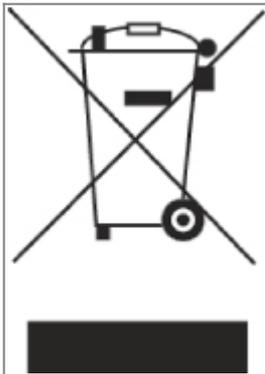
製造者
製品カテゴリー: デジタル・オーディオ・シグナル・プロセッサー
製品: Torpedo Captor X
試験責任者 Guillaume Pille

Two notes Torpedo Captor Xは、CEおよびFCC規格に適合していることが認証されています：

- EN 55103-1 : 1996および
- EN 55103-2 : 1996。
- EN 60065 05/2002 + A1 05/2006.
- EMC指令89/336/EECおよび低電圧指令73/23/EEC。
- FCC Part 15 : 2008.
- ICES-003 : 2004.
- AS/NZS 3548 class B。オーストラリアおよびニュージーランド向け
- IEC : 2008 - CISPR 22 クラス B



4. 欧州連合内の家庭での廃棄機器の処分について



本製品またはそのパッケージにあるこの記号は、この製品を他の家庭ごみと一緒に廃棄してはならないことを示しています。代わりに、廃電気電子機器のリサイクルのために指定された収集場所に廃棄物を引き渡すことにより、廃棄物を処分するのはあなたの責任です。廃棄時に廃棄物を分別して収集してリサイクルすることで、天然資源を保護し、人間の健康と環境を保護する方法でリサイクルすることができます。リサイクルのために廃棄物をどこに持ち込むことができるかの詳細については、最寄りの市役所、家庭ごみ処理サービス、または製品を購入したショップにお問い合わせください。

5. 保証について

OROSYS SASは、このTWO NOTES AUDIO ENGINEERING製品が、購入日から2年間、通常の動作条件下で使用された場合、部品および製造上の欠陥がないことを保証します。この保証は、TWO NOTES AUDIO ENGINEERINGの正規販売店から購入した最初の購入者にのみ適用されるものとします。

重要:購入レシートは限定保証の対象となる購入の証明であるため、保管してください。この限定保証は、購入レシートがないと無効になります。

この保証の対象となる欠陥のある製品は、(OROSYS SASの独自の裁量により)同等または同等の製品と無料で修理または交換されます。保証サービスが必要な場合は、認定TWO NOTES AUDIO ENGINEERINGディーラーに連絡して、該当する保証期間中に購入証明書を添えて、完全な製品を最寄りの認定TWO NOTES AUDIO ENGINEERINGサービスセンターに返送するためのRMAを取得してください。

輸送費

本限定保証には、サービスセンターへの輸送費は含まれていません。OROSYS SASは、この保証の対象となる修理に関して、標準的な地上輸送の返送費用を負担します。本限定保証は、製品のシリアル番号が汚損または削除された場合、または製品が改造、誤用（不適切または不適合な周辺機器への接続を含む）、事故（雷、水、火などを含む）、または放置によって損傷した場合、無効となります。また、OROSYS SASによって承認されていない者が修理を試みた場合も、本保証は無効です。州または地方の法律で課される商品性の黙示保証や特定の目的への適合性の黙示保証を含むいかなる黙示保証も、本限定保証の期間に限定されます。一部の州や地方では、黙示保証の期間に関する制限を許可していないため、上記の制限は適用されない場合があります。

責任の制限

OROSYS SASは、この製品の故障による財産損害、または同製品の使用不能による収入の損失、満足感の喪失、または損害に対して一切の責任を負いません。

TWO NOTES AUDIO ENGINEERING製品を他の場所へ送る必要がある場合、元の梱包材を保持することが非常に重要です。これらの材料なしで製品を輸送すると、損傷を避けるのが非常に困難です。OROSYS SASは、不適切な梱包による製品の損傷に責任を負いません。また、元の梱包材なしで返送されたユニットに対して、再梱包料金を請求する権利を有します。

保証の排他性

上記は、OROSYS SASによって製品に関して行われる唯一の保証であり、明示的または黙示的に他のすべての保証に代わるものであることを明示します。

ロードボックスと真空管アンプの正しい使用方法に関する推奨事項

1. ロードボックスとは何か？

通常の真空管アンプの使用では、電源を入れる前に必ずアンプの電力出力をスピーカーキャビネットに接続することが強く推奨されます。スピーカーキャビネット（4、8、または16オーム）は、常にアンプの対応するスピーカー出力に接続する必要があります。これを行わないと、真空管アンプの出力段が部分的または完全に破損する可能性があります。

多くの真空管アンプメーカーは、製品を保護するためにヒューズやその他の保護システムを装備していますが、依然として十分に保護されていないアンプも存在します。ロード（スピーカーキャビネットやロードボックス）を使用しない場合のアンプの挙動を、市場に出回っているすべての機種で予測することは不可能です。（電子工学の用語では、スピーカーキャビネットはアンプに対して「ロード」と呼ばれます。）

キャビネットがアンプを「ロードする」と言われます。そして、「ロードボックス」という用語は、アンプにロードを提供する製品を指すために使用されます。ロードボックスの主なパラメータは、そのインピーダンスであり、通常はオーム（Ω）で表されます。

送られた電力は熱に変換されるため、ロードボックスの冷却に関する推奨事項に従ってください。そうしないと、オーバーヒートによってロードボックスやアンプの両方に損傷が生じる可能性があります。

Torpedo Captor Xはロードボックスです。この用語は、Torpedo Captor Xがアンプから出力される電力を熱に変換しながら、スピーカーキャビネットを電氣的に置き換えることができることを示しています。

Torpedo Captor Xはリアクティブロードです。リアクティブロードは、実際のスピーカーの複雑なインピーダンスをシミュレートします。



常に真空管アンプのスピーカー出力を適切なロード（スピーカーキャビネットまたはロードボックス）に接続してください。Torpedo Captor Xは、そのようなロードです。Torpedo Captorは、ロードボックスとして機能するために電源を入れる必要はありません。Torpedo Captorの許容最大出力は100W RMSであり、アンプの出力はこれを超えないように設定してください。アンプが100W以上の出力を持つ場合は、こちらの記事をご参照ください。

2. アンプの出力ボリュームはどのくらいに設定すべきか？

ロードボックスを使用する際には、アンプの適切な使用にいくつかの注意が必要です。演奏中は静寂のため、実際のスピーカーキャビネットを使用している場合よりも、アンプをメーカーが設定した合理的な数値、また誤って限界を超えて作動させるなどを簡単にひき起こします。これにより、真空管の劣化が早まり、場合によってはもっと深刻で永久的な問題が発生することがあります。



アンプを初めて高音量でテストする際は、真空管の色やアンプ全体の状態を監視してください。真空管が赤く発光したり、煙が出たりする場合は、アンプの部分的または完全な破損につながる可能性がある問題の兆候です。

アンプの「スイートスポット」、つまり求めているトーンを得られる最適な動作ポイントは、最大音量で得られることはほとんどないことを覚えておいてください。こちらのわかりやすいビデオがその例を示しています。さらに、アンプのボリュームコントロールは通常、対数的に動作します。つまり、ボリュームはポテンシオメーターの回転の前半で急激に上がり、12時の位置で最大に達し、その後はほとんど変わりません。したがって、ボリュームポテンシオメーターが最大に設定されていなくても、アンプの最大音量に達することができます。

アンプの最大出力に達すると、たくさんの歪みが発生し、それが必ずしも期待したようにかっよく聞こえないかもしれません。実際、ほとんどのアンプは最大音量ではあまり良い音が出ません。アンプが長時間最大音量で使用されることを想定して設計されていない場合があることを常に念頭に置いてください。アンプを高音量で動作させると、真空管の早期劣化や出力段での故障や損傷が発生する可能性があります。



アンプのボリュームコントロールが最大に設定されていないからといって、アンプが最大音量で動作していないとは限りません。ボリュームポテンシオメーターの指示に従うのではなく、リハーサルやステージで使用する通常のボリューム設定を維持することが良い習慣です。

3. ロードボックスの使用は完全に無音ですか？

ロードボックスを使用する際、「サイレント録音」という言葉をよく使います。ロードボックスのソリューションを従来のキャビネットのマイキングソリューションと比較すると、明らかに何桁も静かですが、それでも考慮すべき多少の音やノイズが発生することがあります。

- ギターやベースの弦が聞こえることがあります。これは当然のことですが、環境によっては気になる場合があります。
- 演奏中にCaptor X から音が聞こえることがあります。まるでボックスの中に小さなスピーカーがあるかのような音がしますが、これは完全に正常で心配する必要はありません。この音は、Captor X に内蔵されたリアクティブロードのコイルに電力が通るときに発生します。振動は、Torpedoに接続されたアンプから出力される電力と信号の周波数成分（演奏された音）が関係しています。アンプの出力トランスのレベルでも同様のノイズが発生することがあります。このようなノイズは通常、ラウドスピーカーからの音にかき消されて聞こえないため、実際には初めてアンプが動作している音を聞いていることになり、驚かれるかもしれません。
- Captor X には内蔵ファンが搭載されています。ボックス内でかなりの量の電力が熱に変換されるためです。私たちは常に「サイレントファン」を内蔵していますが、非常に高速で動作しているため、完全に無音というわけではありません。ただし、通常の使用時（モニターやヘッドフォンを通してギターを聞いている場合）、そのファンの音はほとんど聞こえません。

Torpedo Captor Xについて

1. Torpedo Captor Xの紹介

素晴らしい音響環境で、完璧にマッチしたスピーカーキャビネットとマイクを選び、真空管アンプで演奏するのは、まさに至福のひとつであり、他に類を見ない体験です。Torpedo Captor Xは、どのような環境でもこの体験を求めるチューブアンプ愛好者のための製品です。Torpedo Captor Xを使えば、アンプの「スイートスポット」で演奏し、アッテネーターを使って音量をコントロールすることができます。100ワットのリグを使って、没入感のあるヘッドフォン体験を静かに楽しむことも可能です。重いキャビネットを運ぶのにうんざりしていたり、音質の不安定さやステージでの音量の問題に悩まされていませんか？当社の伝説的なスタジオグレードのキャビネットシミュレーションを使えば、PAやオーディオインターフェースに直接接続できます。

Torpedoテクノロジーは、ミュージシャンが直面するプレッシャーに対する答えとして生まれました。時間の制約、限られた機材の選択肢、希望する音量で演奏できない大音量のアンプ、そして運ぶのが大変な重いキャビネットなどです。さらに多くのミュージシャンはアナログアンプやエフェクトペダルに慣れており、演奏スタイルや音質が妥協される可能性があるデジタルモデリングシステムを使用したくないと考えています。そうしたプレーヤーにとって、Torpedo Captor Xは、従来のマイキングに代わる「バーチャル」な選択肢を提供します。この技術はコンボリユーションリバーブから派生したもので、シミュレーターではこれまでに経験したことのないリアリズムを実現します。Torpedo Captor Xは、アンプセクションの後に配置し、音を直接PAやレコーダーに送るための、誰もが持つべき完璧なラインアウトです。

Torpedo Captor Xは、自宅やライブ、スタジオで使用できる、コンパクトなリアクティブロードボックス、チューブアンプアッテネーター、マイキングキャビネットシミュレーター、IRローダー、ステレオエクスパンダーです。

Torpedo Captor Xには、32のキャビネットと各キャビネットに完璧にマッチした8つのマイクの大規模なライブラリが付属しています。また、Two notes Store (オンラインのバーチャルキャビネットストア)を通じて、他の多くのキャビネットをアップグレードして追加することもできます。バーチャルマイキングは、1つのキャビネットと2つのマイクを選択し、それぞれのマイクの位置をキャビネットの前（または後ろ）で微調整することによって実現されます。Torpedo Captor Xは、ユーザーにプロのスタジオでサウンドエンジニアとしての役割を担わせることを可能にします。

Torpedo Technology: Two notesはリアリズムと演奏の快適さを提供するために、畳み込み技術の適応に基づき、独自の技術を開発しました。実際のキャビネット+マイクのセットアップの測定から始まり、Torpedo Captor Xは、測定されたシステムを正確に再現し、マイクの空間内での位置も再現することができます。これらのデジタルアルゴリズムを最大限に活用するために、最高品質のオーディオデザインにより、完璧なアナログからデジタルへの変換と、究極の演奏体験を保持するための広大なダイナミックレンジが保証されています。

この製品は、プロのスタジオやステージ環境で徹底的にテストされており、アンプを使用した楽器のプロフェッショナルな音響キャプチャを実現するために多くのミュージシャンが求めている代替手段です。Torpedo Captor Xは、いつでも、どこでも、最高の録音スタジオやプロデューサーのとらえどころのない音を提供します。

2. 単なるスピーカーシミュレーター？

Torpedo Captor Xは、サイレントプレイが必要な場合や、キャビネットから出る音量をコントロールしたい場合など、どんな状況でも持ち運べるスタンドアロンユニットです。Torpedo Captor Xの役割は、従来のギターやベースのセットアップにおいて次の要素を置き換えることです：

- スピーカーキャビネット
- マイク
- マイクプリアンプおよび一部のアウトボードエフェクト

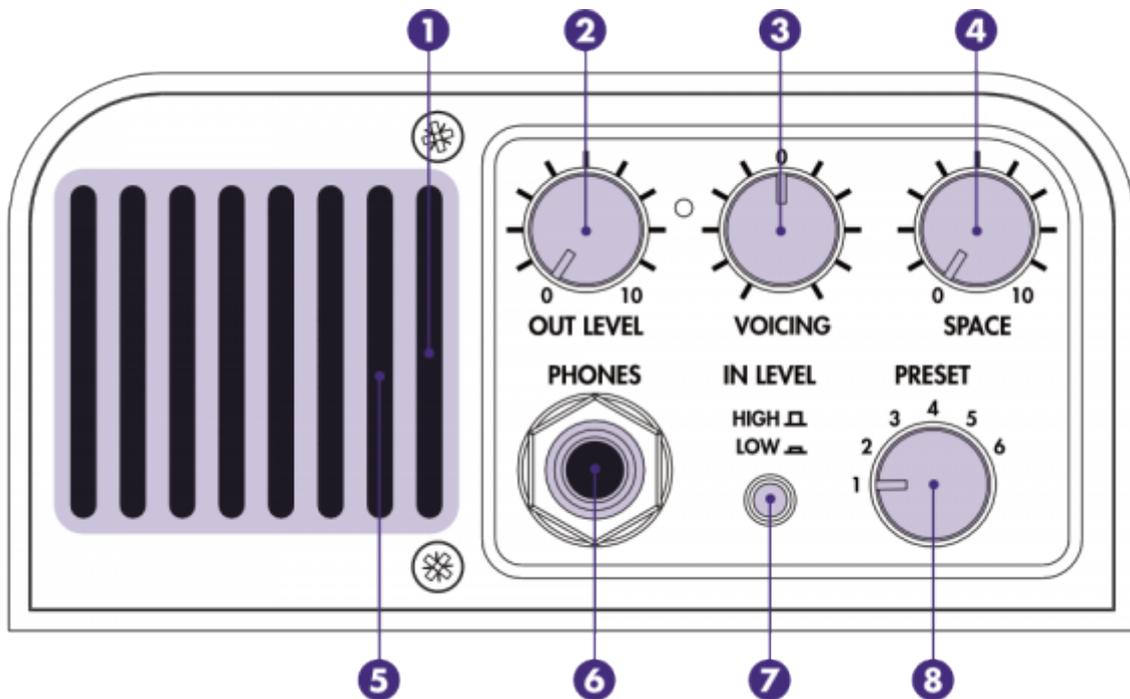
これにより、プロのスタジオ環境での従来のギター/ベースのマイキングにできるだけ近い信号を提供します。

Torpedo Captor Xでのマイキングは、以下の3つのステップで行われます：

- 1.スピーカーキャビネットとマイクを選択します。
- 2.バーチャル環境内でマイクの位置を決めます。
- 3.信号を整形します。(EQ、エンハンサー、ツイントラッカー、リバーブ)

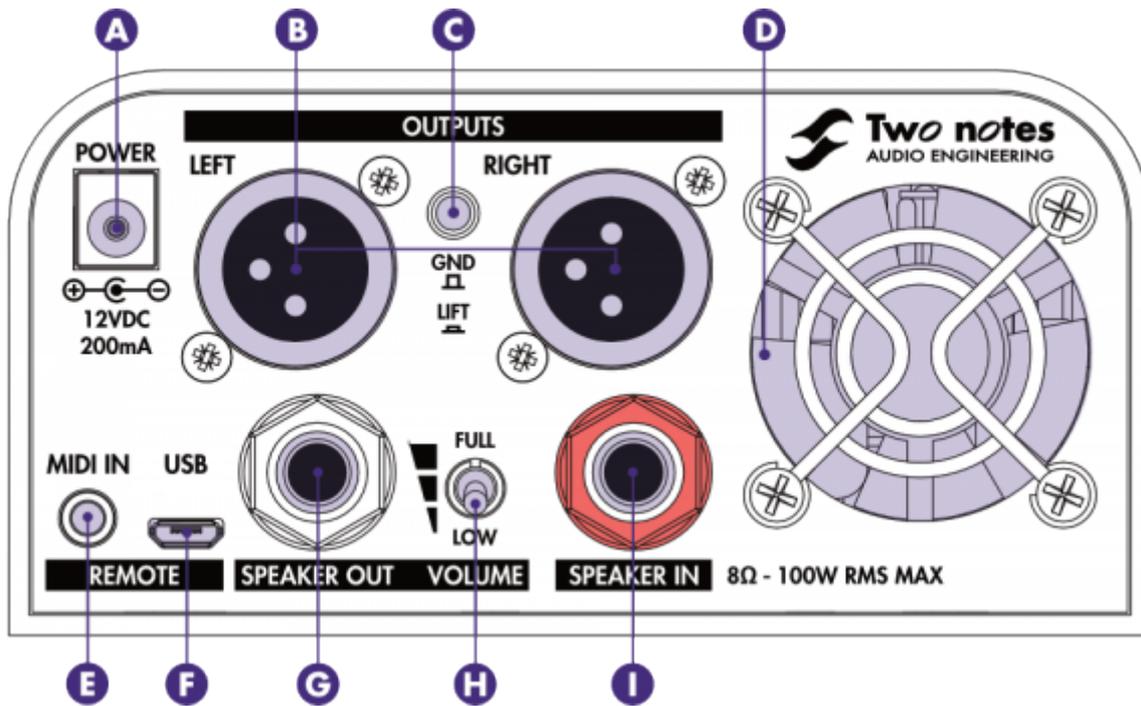
各ステップで、Two notes Audio Engineeringは、最も先進的なシミュレーションを提供し、ミュージシャン（演奏の感覚と反応に関して）とリスナー（音質に関して）の両方に絶対的なリアルな品質を保証するための豊富な経験を活かしています。Torpedo Captor Xには、最大32個のTwo notes キャビネットをロードできます。Two notes Audio Engineeringのウェブサイトから無料のTorpedo Remoteソフトウェア (Mac OS XおよびWindows PC)をダウンロードすると、Captor Xにキャビネットを追加または削除することができます。現在、Two notes Storeには350種類以上のTwo notesキャビネットがあり、リアルタイムで試して購入することができます（インターネット接続が必要です）。

3. フロントパネル



1. グリルLEDで入力と出力レベルをモニターします (赤色＝クリッピング (良くない) 信号);
2. ヘッドホンとXLR DI出力のレベルをコントロールします;
3. チューブアンプの選択と演奏環境に応じてグローバルトーンを調整します;
4. ヘッドホンとXLR DI出力にステレオ効果を広げるためにルームスペースを追加します;
5. 通気口が塞がっていない状態であることを確認します (冷却のための空気が通過できるように);
6. ここにヘッドフォンを接続する。
7. 信号のクリッピングを避けるために入力レベルを設定する。
8. お気に入りのプリセットを瞬時に切り替える;

4. リアパネル



- A. 付属のアダプターでユニットに電源を供給します（正しく定格された電源を使用してください）；
 B. XLR DI出力を介してステレオ、デュアルモノ、またはドライ/ウェット信号を送信します；
 C. グラウンドループによって引き起こされる不要なハムノイズを除去します；
 D. ファンがクリアな状態であることを確認します。
 E. MIDI制御のために付属の1/8"ジャック-MIDIケーブルアダプターを接続します。
 F. Torpedo Remoteを介してコンピュータ（WindowsまたはmacOS）からTorpedo Captor Xを制御します。USBケーブル付属。
 G. ここにスピーカーキャビネットを1/4"ジャックスピーカーケーブルで接続します。
 H. キャビネットの音量レベルを選択します。

- 低位置は「ホーム」レベル
- 中間位置は「クラブ」レベル
- フル位置は「スタジアム」レベル

- I. ここにアンプの出力を1/4"ジャックスピーカーケーブル（最大100W RMS許容電力）で接続します。

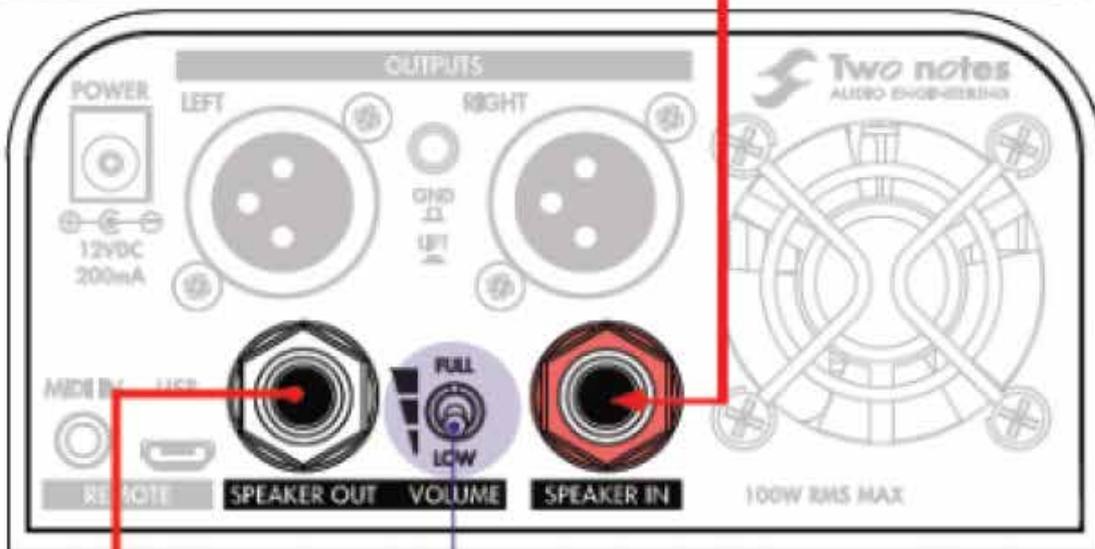
5. Torpedo Captor Xを接続する

Captor Xと他の機器をセットアップする一般的なケースを紹介します。

5.1 キャビネットでアッテネーターを使用する

AMP

Speaker Out
100W RMS MAX



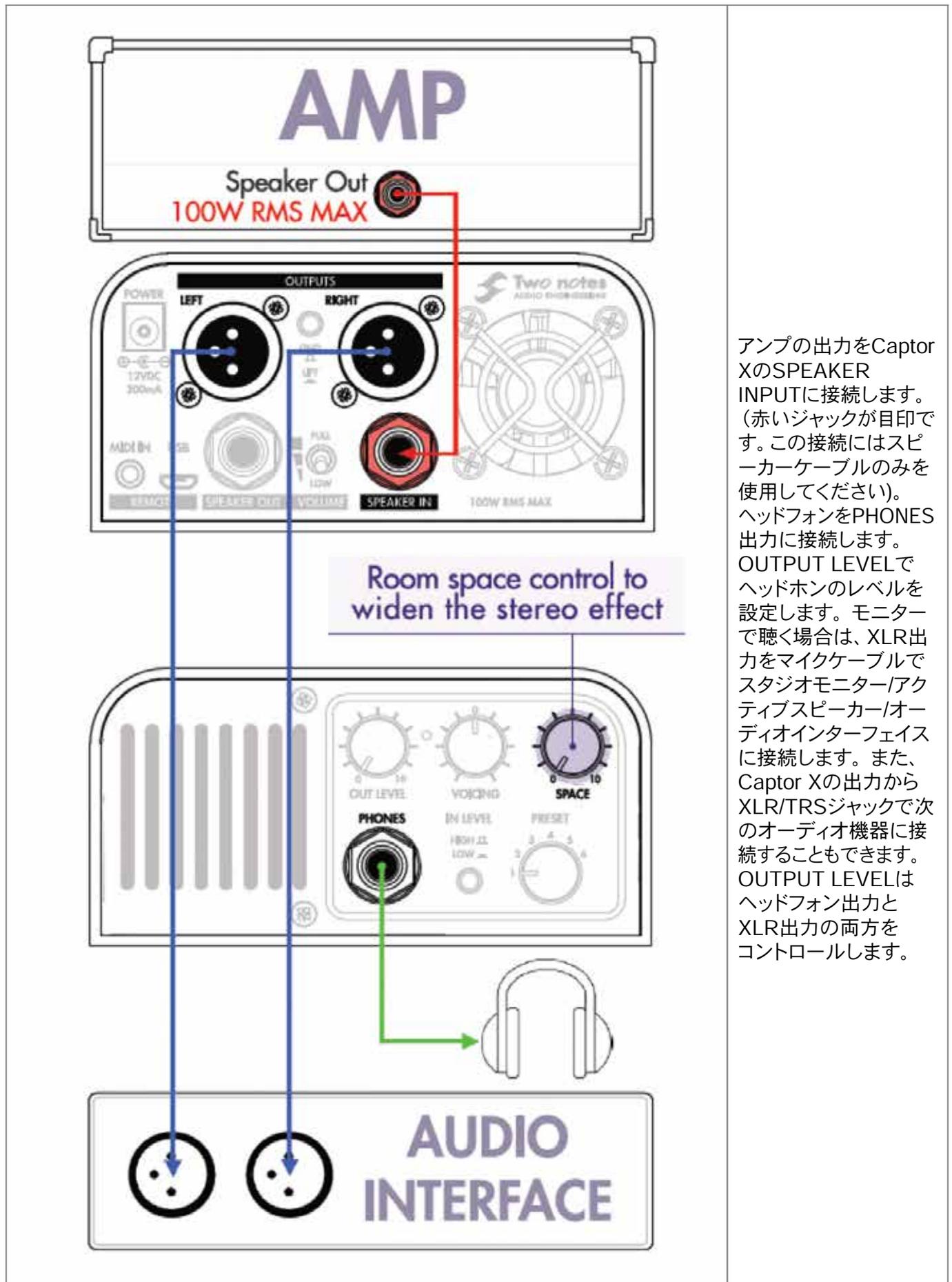
3-way switch to control
your cabinet volume

Speaker In

CABINET

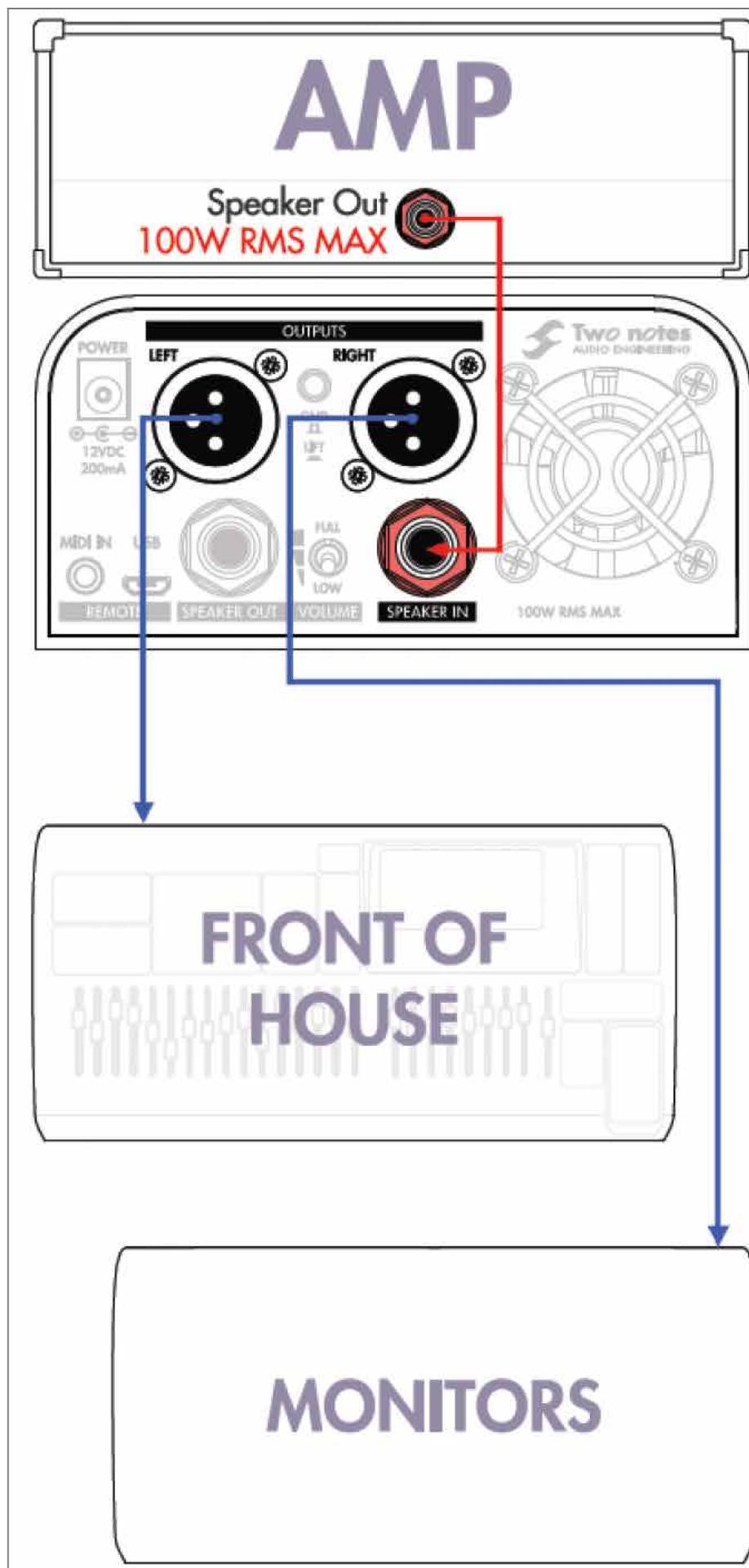
アンプの出力をCaptor XのSPEAKER INPUTに接続します(赤いジャックが目印です。この接続にはスピーカーケーブルのみを使用してください)。キャビネットをCaptor XのSPEAKER OUTに接続します(この接続にはスピーカーケーブルのみを使用してください)。VOLUME LEVELスイッチでキャビネットのサウンドレベルを設定します。Torpedoのプロセッシング(キャビネット・シミュレーション、エフェクト)は、物理的なキャビネットにはかかりません。

5.2 アンプを静かにステレオで使う



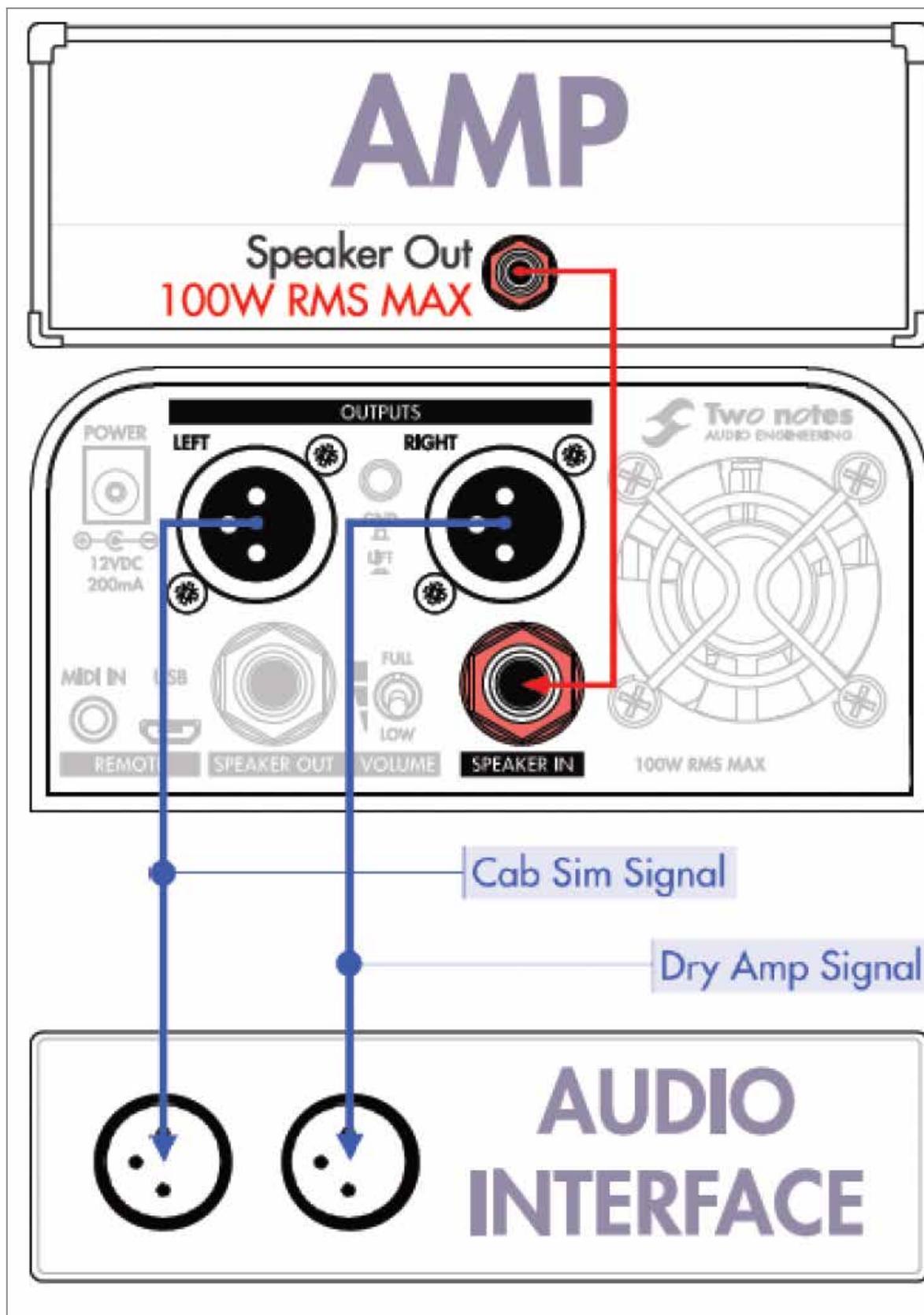
アンプの出力をCaptor XのSPEAKER INPUTに接続します。(赤いジャックが目印です。この接続にはスピーカーケーブルのみを使用してください)。ヘッドフォンをPHONES出力に接続します。OUTPUT LEVELでヘッドホンのレベルを設定します。モニターで聴く場合は、XLR出力をマイクケーブルでスタジオモニター/アクティブスピーカー/オーディオインターフェイスに接続します。また、Captor Xの出力からXLR/TRSジャックで次のオーディオ機器に接続することもできます。OUTPUT LEVELはヘッドフォン出力とXLR出力の両方をコントロールします。

5.3 ステージ上でデュアル/モノ・ルーティング



アンプの出力を赤いでジャック示されたCaptor XのSPEAKER INPUTに接続します。この接続にはスピーカーケーブルのみを使用してください。Torpedo RemoteでDUAL/MONOルーティングを選択し、Torpedo Captor Xから2つの異なる信号を送信します。ドライアンプのサウンドをステージで聴きたい場合は、キャビネットをSPEAKER OUTに接続できます。

5.4 アンプを無音で録音する場合



アンプの出力をCaptor Xの SPEAKER INPUT (赤いジャックで示されています)に接続します。この接続には必ずスピーカーケーブルを使用してください。Torpedo Remoteで DUAL/MONOルーティングを選択し、RIGHT出力で Torpedo Processingをバイパスします。左のXLR出力は Torpedo信号全体を送り、右のXLR出力はアンプのドライ信号をインターフェースに送り、DAW内の GENOMEでキャビネットシミュレーションを追加します。

Torpedo Captor Xの設定と使用

Torpedo Captor Xには、迅速かつ簡単に編集を行うためのクイックアクセスノブがいくつかあります。OUT LEVELはユニットの全体出力レベルを設定し、VOICINGは高速のグローバルEQ、PRESETはユニットから直接6つのプリセットにアクセスすることができます。

Torpedo Captor Xのすべてのパラメータを編集するには、コンピュータ (USB接続) またはモバイルデバイス (ワイヤレス接続) でTorpedo Remoteを使用する必要があります。次の2つのセクションでは、USBおよびワイヤレス接続の手順を説明します。

1. Torpedo Remote: Torpedo Captor X内のすべてのパラメータを編集するためのゲートウェイ

1.1 USB接続



付属のUSBケーブルを使用して、Torpedo Captor Xをコンピュータに接続します。micro USB端をTorpedo Captor Xに接続し、もう一方の端をコンピュータに接続します。

1.1.1 コンピュータでの設定

Torpedo Captor XのウェブページからTorpedo Remoteをダウンロードします。OSに応じて適切なバージョン (WindowsまたはmacOS) を選択してください。Torpedo Remoteを起動すると、ユニットをアカウントに登録するか、ゲストとして使用するかを求められます (ファームウェアの更新などのために、ユニットを登録することをお勧めします)。Torpedo Captor Xをアカウントに登録すると、限定プリセットと3つの追加キャビネットを受け取ることができます。追加の3つの無料キャビネットは、Torpedo Captor Xの初回購入者のみが利用できます。ユニットがアカウントに登録されると、別のアカウントでこれらの3つの無料キャビネットを引き換えることはできません (たとえば、中古購入者の場合)。

ゲストモードでは、個人のTwo notesライセンスからTorpedo Captor Xにキャビネットをインポートすることはできません。また、Torpedo Captor Xからキャビネットを削除することもできません。

1.2 ワイヤレス接続

1.2.1 携帯電話/タブレットでの設定

モバイルデバイスからBluetoothを介してTorpedo Captor Xに接続します。接続は次の順序で行う必要があります:

-
- Torpedo Wireless Remoteアプリを起動します。
 - 要求されるすべての許可を承認します（これらはお使いのタブレットや電話に依存します）。
 - 接続ウィンドウが表示されるはずなので、画面の指示に従います。
 - Torpedo Captor Xとモバイルデバイスをペアリングするために、ピンコードを入力します。
ピンコードは「000」で始まる6桁の番号で、最後の3桁はCaptor Xのシリアル番号の最後の3桁です。（例:シリアル番号が11123456の場合、ピンコードは000456です）

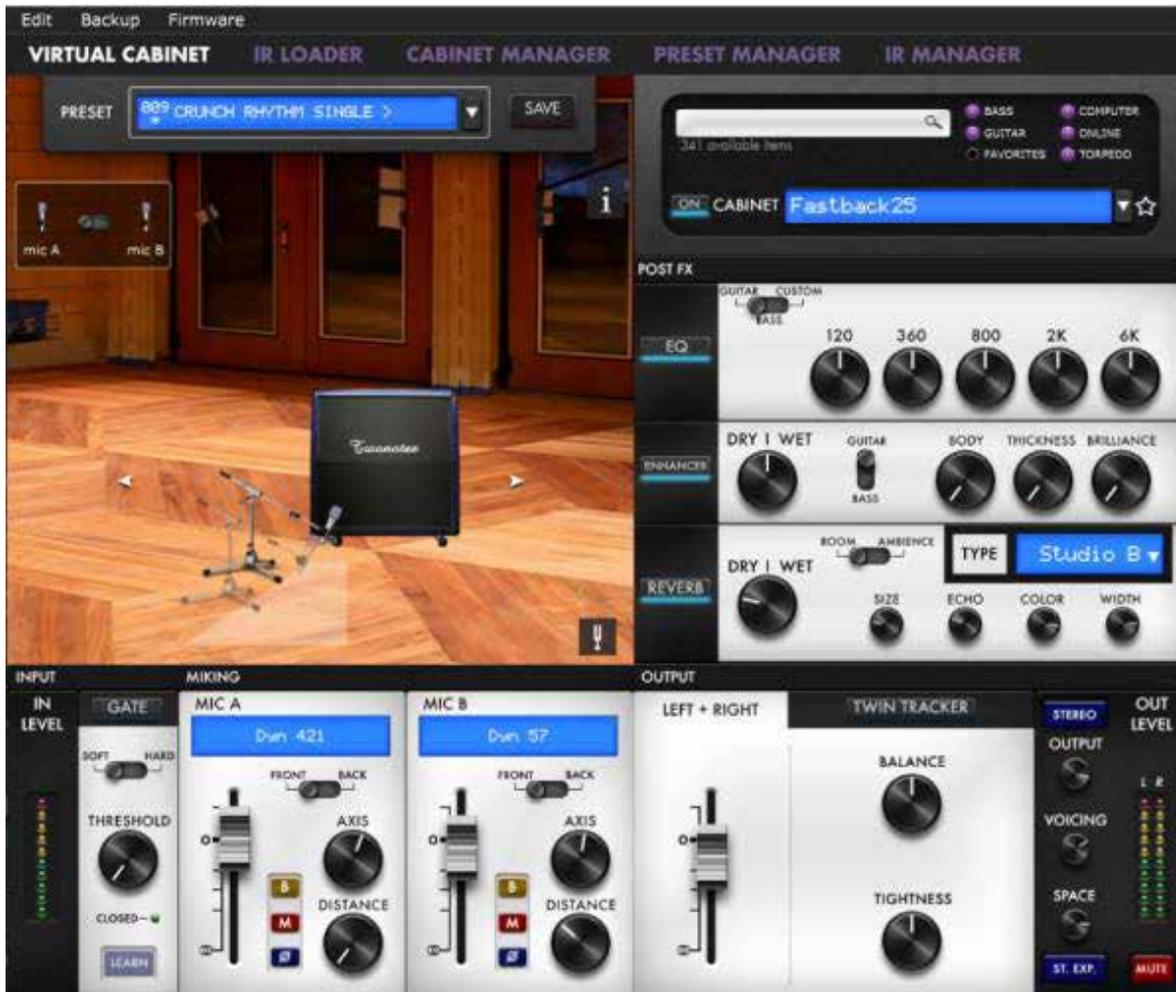
トラブルシューティング:

ピンコードを入力した後にTorpedo Captor XがTorpedo Wireless Remoteの「Devices」メニューに表示されない場合は、電話のBluetoothメニューにペアリングされているデバイスのリストでTorpedo Captor Xのペアリングを解除する必要があります。その後、上記の手順を再実行してください。Torpedo Captor Xを電話やタブレットのOSからペアリングすることはできず、Torpedo Wireless Remoteを通じて行う必要があります。一部の電話では、Bluetoothペアリングを許可するために位置情報（GPS）を有効にする必要があります。Bluetoothを有効にしてもペアリングできない場合は、位置情報を有効にしてみてください。

1.3 バーチャルキャビネット / IRローダーモード

Torpedo Remoteを使用してTorpedo Captor Xのすべてを制御します。このソフトウェアは、バーチャルキャビネットモードとIRローダーモードの2つの環境に基づいて構築されています。バーチャルキャビネットはTwo notesバーチャルキャビネットを操作するために設計されています。Torpedo Captor Xには32個のキャビネットがすでにインストールされています。Torpedo Captor XをTwo notesアカウントに登録すると、追加で3つのキャビネットと専用のプリセットが提供されます。これらの追加の3つの無料キャビネットと専用のプリセットは、Torpedo Captor Xの初回購入者のみが利用できます。ユニットがアカウントに登録されると、別のアカウントでこれらの3つの無料キャビネットを引き換えることはできません（たとえば、中古購入者の場合）。IRローダーは、.wav形式のサードパーティIRを使用するためのモードです。両方のモードには同じエフェクトと、XLR出力の同じルーティングが含まれています。以下は、コンピュータ（WindowsまたはmacOS）でTorpedo Remoteを使用する際の全体レイアウトです。

2. バーチャルキャビネットを使ったプリセットの作成



プリセットには以下が含まれます:

- キャビネット
- 8種類の中から選択した2つのマイクと、それらの部屋内での位置
- エフェクト設定 (EQ、エンハンサー、リバーブ、ツイントラッカー)
- 左右の出カレベル

2.1 キャビネットの選択



プリセットを作成するには、まずキャビネットを選択します。Torpedo Captor Xには、すでに32個のバーチャルキャビネットが内部メモリにロードされています。Torpedo Captor X内のキャビネットリストにアクセスするには、青い画面またはその横にある矢印をクリックします。表示結果をベースキャビネットやギターキャビネットに絞り込むことができます。「Torpedo」を選択すると、ユニットに保存されているキャビネットのみが表示されます。「コンピュータ」を選択すると、ライセンスに含まれるキャビネットで、コンピュータに保存されているものをプレビューできます。「オンライン」を選択すると、Two notesストアからキャビネットを試聴できます

2.2 マイクの選択

すべてのTwo notesバーチャルキャビネットには、そのキャビネットに特化した8つのマイクが個別に付属しています。マイクチャンネルのフェーダー上にある青いウィンドウをクリックすると、マイクのリストにアクセスできます。マイクはその技術によって記述されます:DYNはダイナミックマイク、CNDはコンデンサーマイク、RBNはリボンマイクです。

2.2.1 マイクの位置調整



マイクは、キャビネットの前または後ろにある台形のハイライトエリア内で自由に移動させることができます。スイッチでMic AまたはMic Bを選択し、マイクやマイクスタンドを押して、コンピュータを使用している場合はマウスで、モバイルデバイスを使用している場合は指でマイクを移動させます。

2.2.2 Mic A / Mic B



フェーダーを使用して音量レベルを設定し、前後スイッチでマイクをキャビネットの前または後ろに配置します。Bypassボタンで未処理の信号(B)を送信し、Muteボタン(M)でミュートし、Phaseボタン、DistanceおよびAxisノブでマイクの位置を調整します。

2.3 トーンの調整

Torpedo Captor Xには、PAシステムやオーディオインターフェースに送信する前に音を整えるための多くのツールがあります。

2.3.1 ノイズゲート



ノイズゲートは、ハイゲインアンプを使用していて、演奏していないときに信号を静かに保ちたい場合や、ビンテージスタイルのシングルコイルピックアップを使用している場合に便利です。スレッショルドはノイズゲートが有効になるレベルを設定します:このレベルを超えるとノイズゲートはオフになり、このレベルを下回るとノイズゲートは有効になります。Learnボタンを押すと、スレッショルドレベルが自動的に設定されます。ギターのボリュームを最大にし、手で弦をミュートしてからLearnボタンをクリックします。ノイズゲートは入力音を聞いて、スレッショルドレベルを適切に設定します。入力信号を正確に分析できるように、少なくとも3秒間弦をミュートしてください。

2.3.2 EQ



セクションには、ギター、ベース、カスタムの3つの動作モードがあります。GuitarとBassは5バンドEQで、ゲインレンジは-20dBから+20dBです。カスタム・モードでは、5バンド・セミ・パラメトリックEQとハイパス・フィルターにアクセスできます。

ギター モード: 120Hz, 360Hz, 800Hz, 2000Hz, 6000Hz (各帯域の中心周波数は低い方から高い方へ)

ベース・モード: 50Hz, 120Hz, 360Hz, 800Hz, 4000Hz (各バンドの中心周波数、低い方から高い方へ)

Customモード: バンドは以下の通り: Low Cut: ローカット、10~500Hz (オクターブごとに12dBのスロープ)

- Low: ローシェルフ、60~240Hz、+/-20dB
- LMid: ピーク、180~720Hz、+/-20dB
- Mid: ピーク、400~1600Hz、+/-20dB
- HMid: ピーク、1~4kHz、+/-20dB
- High: ピーク、3~12kHz、+/-20dB

2.3.3 エンハンサー



エンハンサーは、ギターやベース専用に調整されたダイナミクスとトーンシェーピングツールの組み合わせです。

エンハンサーは、ギターやベース専用に調整されたダイナミクスとトーンシェーピングツールの組み合わせです。Dry/Wetノブを使用して、キャビネットシミュレーション信号とエンハンサーで処理された信号のバランスを調整できます。ノブをゼロにすると(完全に下げた状態)、キャビネットシミュレーション信号のみが聞こえます。ノブが中間位置にあると、キャビネットシミュレーション信号のレベルはエンハンサーのレベルと等しくなります。ノブを完全に上げた状態では、エンハンサーで処理された信号のみが聞こえます。Bodyはコンプレッサーで、高域フィルターを備えており(ギターモードでは100Hz、ベースモードでは150Hzに設定されています)、信号の低中域以上の周波数にのみ影響を与えます。Bodyを使用することで、トーンがより豊かで存在感のあるものになります。Thickness(厚み)とBrilliance(輝き)は、それぞれ低域と高域を強調します。Thicknessはギターモードで400Hz、ベースモードで150Hzに中心を置いており、Brillianceはギターモードで1500Hz、ベースモードで2000Hzに中心を置いています。ThicknessとBrillianceは、0dBから+15dBのゲイン範囲を持っています。

2.3.4 リバーブ



Torpedo Captor Xには、12種類のルームリバーブと1つのカスタムリバーブが搭載されています。

カスタムリバーブを使用する際には、以下のパラメータにアクセスできます:

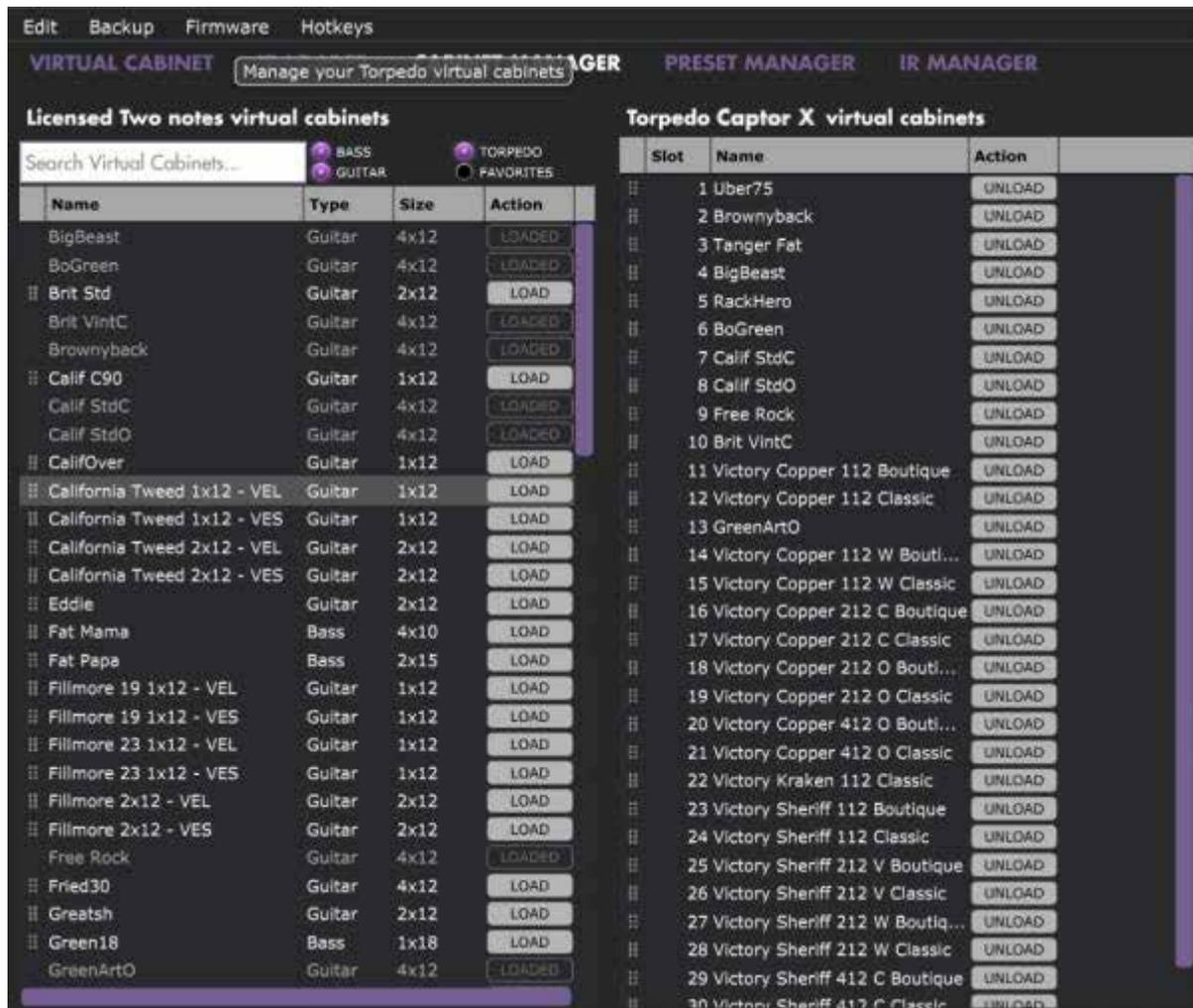
- Dry/Wet: 入力信号とリバーブのレベルを調整します。ノブが中間位置にあると、両方のレベルが等しくなります。
- Size: 部屋のサイズを調整します。小さな空間から巨大な空間まで設定可能です。
- Echo: 反響のレベルを調整します。
- Color: リバーブのトーンを暗めから明るめまで調整します。

また、リバーブの音響特性を変更するスイッチもあります:

- Room: 早い反響が多く、明るいサウンドを提供します。
- Ambience: 微妙な早い反響と重低音の反応を提供します。

2.4 Torpedo Captor Xへのキャビネットのインポート

Torpedo Captor Xにキャビネットをインポートまたは削除するには、Torpedo Remoteを使用してTorpedo Captor XをTwo notesアカウントに登録する必要があります。ゲストモードでTorpedo Remoteを使用している場合、キャビネットをインポートまたは削除することはできません。CABINET MANAGERタブを使用して、Torpedo Captor X内のTwo notes Virtual Cabinetsを管理します。左側のパネルにはコンピュータ上にあるキャビネットが表示され、右側のパネルにはユニット内に保存されているVirtual Cabinetsが表示されます。



Torpedo Captor Xには、すでに32のDynIRキャビネットが内部メモリにフルロードされています。コンピュータに保存されているキャビネットをユニットにインポートするには、右側のパネルにあるキャビネットを1つ以上アンロードしてスペースを確保する必要があります。

(注:キャビネットはTorpedo C.A.B. M+からのみ削除されますが、ライセンスには残りますので、Torpedo Remoteを使用していつでも再インポートできます)

左側のパネル(コンピュータ)から右側のパネル(ユニット内)にキャビネットをドラッグ&ドロップするか、左側から右側にキャビネットを移動するために「ロード」ボタンをクリックします。

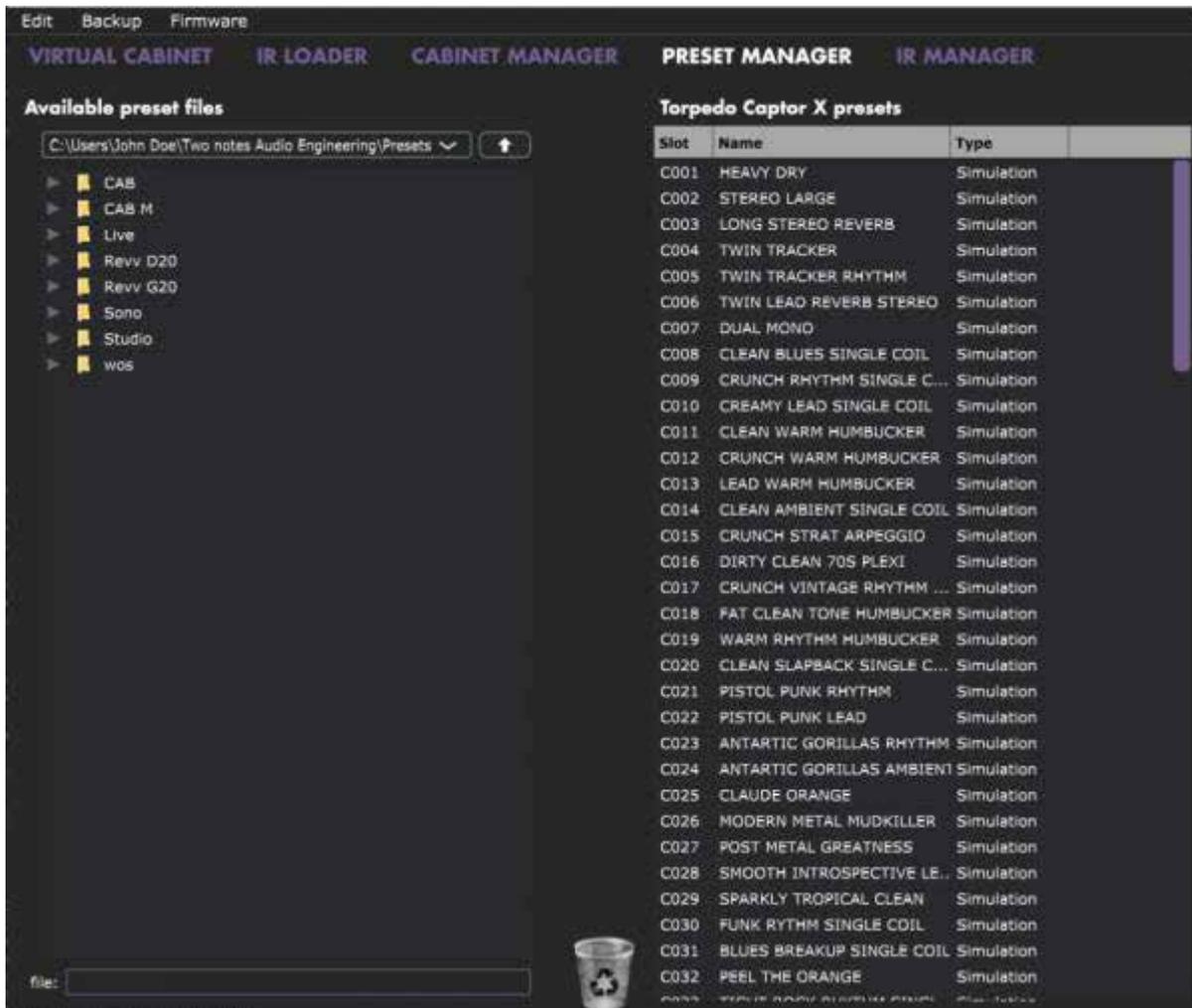
CABINET MANAGERでは、Torpedo Captor X内のDynIRキャビネットの順序を並べ替えることができます。キャビネットを選択して、リストの中で上下に移動させて、指定されたスロットの順序を変更します。

2.5 プリセットの保存と読み込み



画面上部のプリセットラックを使用して、Torpedo Captor Xにプリセットを保存および読み込むことができます。プリセット用のメモリスロットは128個あります。

PRESET MANAGERタブを使用して、Torpedo Captor Xのプリセットを管理します。左側のパネルにはコンピュータ上のプリセットフォルダが表示され、右側のパネルにはユニット内に保存されているプリセットが表示されます。



プリセットを上下に移動させて、Torpedo Captor X内での順序を変更します。最初の6つのスロットは、ユニットの前面にあるPRESETノブでアクセスできます。プリセットを削除するには、それをドラッグして下部のゴミ箱にドロップします。左側のパネル（コンピュータ）から右側のパネル（Captor Xの内部メモリ）にプリセットをドラッグ&ドロップします。

3. サードパーティ製IRを使用してプリセットを作成する



Torpedo Captor Xは最大512個のIRをロードできます。IRのインポートはすべて、Torpedo Remoteを介してIRマネージャー（コンピュータ経由）で行われます。Captor Xにアップロードされると、IRの長さは20ms、40ms、100ms、または200msに設定できます。IRが長い場合、Torpedo Remoteによって選択された長さに短縮されます。短い場合は、選択された長さに合わせて（ゼロで埋められて）拡張されます。内部メモリには、IRの長さに関する以下の制限があります：

- 20ms IR用512スロット、4バンク×128スロット
- 40ms IR用256スロット、4バンク×64スロット
- 100ms IR用84スロット、4バンク×21スロット
- 200ms IR用44スロット、4バンク×11スロット

3.1 IRの選択

Torpedo BlendIRで作成したカスタムIRやサードパーティ製のIRを使用するには、Torpedo RemoteでIR Loaderモードを選択する必要があります。このウィンドウはVirtual Cabinetに似たレイアウトになっています。各チャンネルに1つのIRをロードでき、各チャンネルに対してミュート、バイパス、フェーズ、フェーダーを使ったボリュームコントロールが可能です。その後、EQ、Enhancer、リバーブを使用して音色を調整することができます。

3.2 Torpedo Captor XへのIRのインポート

Torpedo Captor Xにサードパーティ製のIRをインポートまたは削除するには、Torpedo Remoteを使用してTorpedo Captor XをTwo notesアカウントに登録する必要があります。ゲストモードでTorpedo Remoteを使用している場合、サードパーティ製のIRをインポートまたは削除することはできません。Torpedo Captor Xの内部メモリにファイルをロードするには、IR Managerウィンドウを使用します。



左側のパネルにはコンピュータ上のファイルが表示されます。ここでIRを保存しているフォルダをブラウズできます。右側のパネルにはTorpedo Captor XにロードされているIRファイルが表示されます。IRをコンピュータ(左側)からTorpedo(右側)にドラッグ&ドロップすることができます。ペダルのメモリスロットを空けたい場合は、IRを下部のゴミ箱にドラッグ&ドロップできます。(これはIRをコレクションから削除するのではなく、Torpedo Captor Xから削除するだけです)

ファイルの転送に際して、以下のようなIRファイルを変更するオプションにアクセスできます：

- IRの長さ: IRの長さを増やすことで、Torpedo処理の解像度が向上します(より高い精度により、低音域の正確性が向上します)。ただし、40msのIRはTorpedo Captor Xの内部メモリで2つのスロットを占有します。
- IRオフセット: IRファイルの処理方法を変更する3つのオプションがあります：
 - o Min Phase: アルゴリズムがファイル内のサンプルを移動させ、他のIRファイルと位相を合わせます(他のファイルも同様に転送する場合)。
 - o Min. IR Latency: ファイルがカットされ、最初のサンプルの前に無音がないようにします。これにより音が変わる可能性があります、レイテンシーは最小限に抑えられます。

- o Original: ファイル内のサンプルはそのまま維持されます。他のIRファイルと混ぜると位相キャンセルが発生する可能性があります。

コンピュータのハードドライブに保存されたIRを直接使用することも可能です。この場合、プレビューモードになります。このモードでは、IR Aで1つのIRしか使用できません。このIRを使用してプリセットをコンピュータに保存できますが、Torpedoには保存できません。IRをフルに活用するためには、ファイルをTorpedoにインポートする必要があります。

4. 出カルーティング



Torpedo Captor Xは、XLR出力の異なるルーティングオプションを提供します。これらはSTEREOまたはDUAL/MONOに設定できます。ルーティングを変更するには、出力レベルノブの上にある紫色のボタンをクリックしてください。

4.1 ステレオルーティング

ステレオモードでは両方の出力が同じキャビネットシミュレーター信号を送信します。ステレオモードではTwin Trackerを利用でき、すべてのリバーブがステレオになります。

4.1.1 ツイントラッカー



Twin Trackerは、自動ダブルトラッカーです。モノラルのアンブ音が左出力にルーティングされ、Twin Trackerはリアルタイムで右チャンネルに別のトラック（仮想ギタリスト）を作成します。タイミングとアタックのわずかな違いが、より力強く、豊かな音を作り出します。

Twin Trackerには2つのパラメーターがあります：

- Balance:** Twin Trackerのレベルを設定します。ノブを完全に下げると、Torpedo Captor Xの左出力のみが聞こえます。
- Tightness:** 仮想ギタリストのディレイを設定します。レイテンシーは最大70msに達します。（右XLR出力のみを接続し、演奏中に非常に大きなレイテンシーを感じる場合、ステレオルーティングでTwin Trackerがオンになっており、Tightnessパラメーターが最大になっている可能性があるため確認してください。）

Twin Trackerはステレオルーティングでのみ利用可能です。オンにすると、リバーブのWidthは自動的に100%に設定されます。

4.1.2 ステレオリバーブ

ステレオモードでは、Widthパラメーターを使用して任意の部屋のステレオサイズを設定できます。モノラル（ノブを左端まで回した状態）からフルワイドステレオ（ノブを右端まで回した状態）まで調整可能です。

4.1.3 スペースノブの割り当て



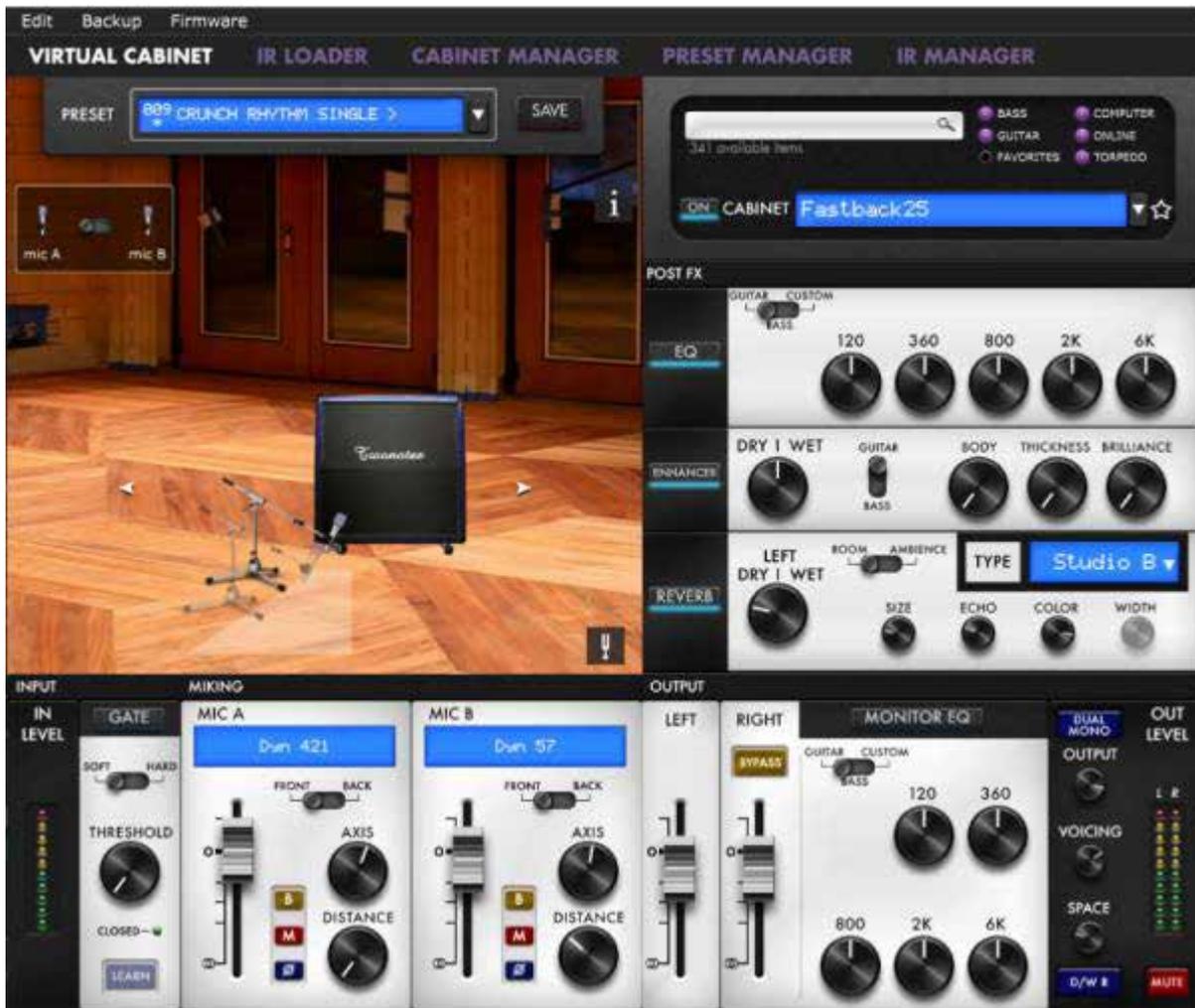
前面パネルのSPACEノブでは、1つのパラメーターをその場で操作できます。Torpedo Remote内でSPACEノブの動作を割り当てるには、ソフトウェア内のSPACEノブの下にある紫色のボタンを使用します。

以下の異なる割り当てが可能です：

	<ul style="list-style-type: none">•Twin TrackerがOFFの場合、SPACEノブはリバーブのWidthに割り当てられます。•Twin TrackerがONの場合、SPACEノブはTwin TrackerのTightnessに割り当てられます。この場合、リバーブのWidthは自動的に100%に設定されます。
	<ul style="list-style-type: none">•また、SPACEノブはリバーブのDry/Wetレベルにも割り当てられます。

4.2 デュアルモノルーティング

このルーティングでは、各XLR出力から独立した信号を送信できます。右側のXLR出力に対して、異なるEQやDry/Wetリバーブレベルを設定することが可能です。Torpedo Remoteのレイアウトには、右側の出力フェーダーの隣に追加のEQが表示されます。



4.2.1 追加のEQ

右側の出力に異なるEQを設定できます。EQのすべてのパラメーターは、一般的なEQと同じです。各モード、バンド、設定の説明については、セクション4.2.3.2を参照してください。

4.2.2 Dry/Wetリバーブ設定

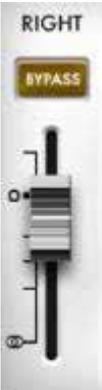
各XLR出力に対して2つの異なるDry/Wetリバーブレベルを設定できます。リバーブトラック内のパラメーターは、Torpedo Remoteを通じてのみ編集可能です。SPACEノブの割り当てによって、リバーブトラック内のDry/Wetは左または右のXLR出力に影響を与えます。

4.2.3 スペースノブの割り当て

SPACEノブに対して異なる動作を設定することができます：

SPACE ノブの割り当て	動作
	SPACEノブは、両方のXLR出力のDry/Wetリバーブレベルを制御します。
	SPACEノブは、左側のXLR出力のDry/Wetリバーブレベルを制御します。
	SPACEノブは、右側のXLR出力のDry/Wetリバーブレベルを制御します。

4.2.4 トーピド処理のバイパス



右側の出力チャンネルでBypassボタンが有効化されている場合、Torpedoの全処理がバイパスされます。右側のXLR出力はドライアンプサウンドを送信します。これはアンプを録音したい場合に理想的な設定です。左側のXLR出力からフルキャビネットシミュレーター信号を録音し、同時に右側のXLR出力からドライアンプサウンドを録音できます。

5. チューナー



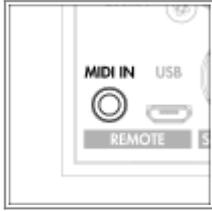
ルーム画像の下にあるフォークボタンをクリックしてチューナーにアクセスします。チューナーは完全にクロマチックです。基準音の設定は、Setup Managerで410Hzから490Hzの範囲で調整可能で、デフォルトは440Hzです。

6. Voicingノブ



Torpedo Captor Xの前面パネルにあるVOICINGコントロールは、XLR出力から出力されるユニットの全体的な音質を調整するためのものです。900Hzに中心を置いた、-12dBから+12dBの範囲を持つシンプルな1バンドイコライザーです。

7. MIDIコントロール



Torpedo Captor Xは、通常のMIDIコントローラーを使用してMIDIで制御できます。MIDI経由でTorpedo Captor Xを制御するには、付属のMIDI toミニジャック変換ケーブルを使用します。Control Changeを通じてTorpedo Captor Xの任意のパラメーターを制御したり、Program Changeを通じてプリセットを変更することができます。MIDIマッピングは、取扱説明書の該当セクションに記載されています。

8. 点滅する赤色LED

Torpedo Captor Xには以下のイベントや問題を知らせるために赤色LEDが装備されています：

- Torpedo Captor Xの入力または出力段階でのクリッピング
- Remoteソフトウェアによるファイル転送
- 入力信号に関係のないシステムエラー

8.1 入力または出力のクリッピング

Torpedo Captor Xの入力または出カステージがオーバーロードされると、信号に応じて赤色LEDが点灯します。まず、Output Levelを下げてください。それでもLEDが点灯する場合、Torpedo Captor Xの入力がクリッピングしている可能性があります。フロントパネルのIN LEVELスイッチ（画像のN°7参照）をLOWポジションに切り替えます。これにより、入力信号に対して-15dBのパッドがアクティブになります。LOWスイッチをオンにしてもなお入カステージがクリッピングする場合は、赤色LEDが消えるまでアンプの音量を下げてください。

Torpedo Remoteを使用すれば、専用のVUメーターで入力および出力レベルを確認できます。

8.2 Remoteとの通信

Torpedo Captor XとRemoteソフトウェア間でファイル転送が行われているとき、赤色LEDは進捗インジケータとして機能します。データが実際に送信される一定の割合に応じて点滅します。これにより、転送が正常に行われているか、または停止しているかを確認できます。

この現象は、バーチャルキャビネット、IRファイル、およびファームウェアファイル（ファームウェアの更新中）を転送しているときに発生します。

8.3 システムエラー

Torpedo Captor Xの赤色LEDは、ユニット内のファームウェアでエラーが検出された場合に点滅します。

システムエラーによるLEDの点滅と入力または出力のクリッピングエラーを区別するには、アンプの電源を切り、Torpedo Captor Xからアンプを切り離してください。アンプから切り離れた状態でもTorpedo Captor Xが赤色LEDの点滅を続ける場合、これはシステムエラーを示しています。LEDの点滅を解読するには、LEDレポートに関するこの記事リンクを参照してください。LEDレポートの内容を記録し、サポートデスクにチケットを提出してください。

使用例

1. アッテネーターの使用

アッテネーターはTorpedo Captor XのSPEAKER OUTに接続されたキャビネットの音量を減衰させる機能です。Torpedo Captor Xを使用する際、キャビネットの接続は必須ではありません。ロードボックスとして機能するため、SPEAKER INPUTに接続されている限り、アンプには常に安全な負荷がかかります。



アッテネーターを使用するにはキャビネットをTorpedo Captor XのSPEAKER OUTに接続する必要があります。音量レベルスイッチを使ってアッテネーターを有効化します。

キャビネットの音量レベルには、以下の3つの設定があります。

FULL: アッテネーターがバイパスされます。アンプからキャビネットに送られる出力が全て伝わります。また、アンプが見るインピーダンスはキャビネットのもので、アンプのスピーカー出力はキャビネットに合わせて使用してください（例: 16オームのキャビネットには16オームの出力を使用、Captor Xのインピーダンスに関わらず）。

“HALFWAY” (無表示): アッテネーターが有効化され、音量が20dB減衰します。この状態ではアンプはTorpedo Captor Xのインピーダンスを見ている。このレベルはステージ上でキャビネットを使用する際に非常に有用です。

LOW: アッテネーターが完全に有効化され、音量が38dB減衰します。この場合、アンプはTorpedo Captor Xのインピーダンスを見ている。このレベルは、家庭でチューブアンプを使用する際に設計されています。ほとんどの状況でアンプの出力を完全に減衰させますが、場合によってはキャビネットからわずかに信号が聞こえることがあります。

2. orpedo Captor Xの家庭での使用

2.1 サイレント使用

Torpedo Captor Xはリアクティブ・ロードボックスです。これにより、キャビネットを使用せずに真空管アンプを演奏することが可能です。これは自宅での録音や夜間の練習に理想的です。アンプをTorpedo Captor XのSPEAKER INに接続するだけで、ヘッドフォン出力を通じて真空管アンプの音を聴いたり、XLR DI出力を使用してモニターで聴くことができます。

2.2 キャビネット使用とアッテネーター使用

アッテネーターを使用すると、物理的なキャビネットの音量を家庭用に適したレベルまで最大38dB減衰させることが可能です。キャビネットをTorpedo Captor XのSPEAKER OUTに接続します。本機内のエフェクトやキャブシミュレーション (Enhancer、Reverb、Twin Tracker、EQなど)はキャビネットを通じては聞こえません。これらのオーディオ処理をモニターで聴くためには、XLR DI出力をオーディオインターフェースやミキシングデスクに接続する必要があります。

3. Torpedo Captor Xのステージでの使用

3.1 デュアルモノラル・ルーティングの使用

Torpedo Remoteを使用して、Torpedo Captor XのXLR出力から2つの異なる信号を送るように設定できます。出力レベルノブの上にある紫色のボタンでDUAL MONOルーティングを選択します。(出力ルーティングの詳細は4.4節を参照)DUAL MONOルーティングでは、異なるEQやリバーブレベルを持つ信号を出力することができます。全てのオプションについては4.4.2節を参照してください。一方の信号をフロント・オブ・ハウス (FOH)に、もう一方をモニターに送ることが可能です。

Voicing

ノブは両方の出力に影響を与えます。

3.2 キャビネットを使用する場合

アッテネーターを使用すると、物理的なキャビネットの音量を減衰させることが可能です。20dB減衰させるハーフウェイの位置はステージレベルに適しています。キャビネットは音をモニタリングするための追加の音源となります。キャビネットをTorpedo Captor XのSPEAKER OUTに接続します。本機内のエフェクトやキャブシミュレーション (Enhancer、Reverb、Twin Tracker、EQなど)はキャビネットを通じては聞こえません。

4. Torpedo Captor Xのスタジオでの使用

4.1 「Torpedo Processingのバイパス」を使用する場合

DUAL MONOルーティングを使用すると、Torpedo Captor Xの右出力から入力されたアンプ信号のドライ信号を送ることができます。右チャンネルのフェーダー上のBYPASSボタンをクリックすると、本機のTorpedo処理が全てバイパスされます。ドライなアンプ信号は、後でミックス時にGENOMEプラグインを使用してキャビネットシミュレーションを追加することが可能です。

DAWで2つの異なるアンプ信号を同時に録音することができます: Torpedo Captor Xの左XLR出力からのフルTorpedoキャブシミュレーション信号と、右XLR出力からのドライなアンプ信号です。

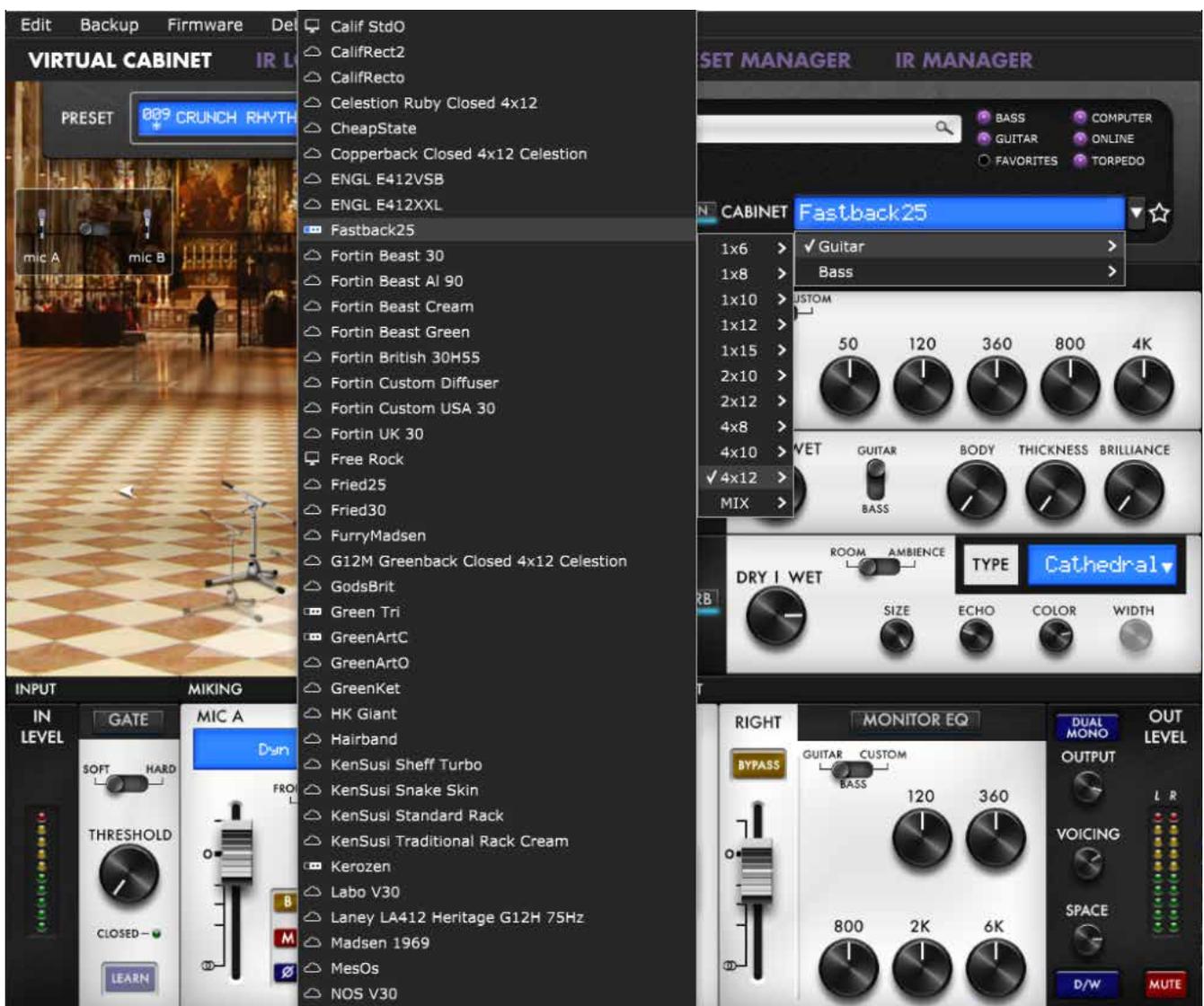
4.2 キャビネットを使用する場合

お気に入りのキャビネットを接続し、マイクを立てて、同時に3つの異なる信号を録音します。キャビネットの音量レベル設定を使用して、音量を調整してください。

5. さらに多くのキャビネットをお探しですか？

5.1 Two notesキャビネット

Desktop Remoteを使用することで、ライセンスに含まれていないキャビネットもプレビューできます。これにより、Remoteでキャビネットをブラウズする際、ライセンスやTorpedo Captor Xに含まれているものよりもはるかに多くのキャビネットが表示されます。



キャビネット名の前には以下の3種類のアイコンが表示されます:

	Torpedoユニットに入っているキャビネット
	コンピュータにロードされたライセンスに含まれているキャビネット



所有していないが、Two notesストアで購入前にプレビューできるキャビネット

コンピュータに入っているキャビネットをプレビューする際（つまり所有していてライセンスがコンピュータに保存されている場合）、Remoteはまずキャビネットをロードする必要があります。その後、すべてのパラメータを編集できるようになります。プレビュー中はキャビネットのマイクが1つだけ使用可能です。音声は通常通りユニットを通じて処理されるため、Captor Xを通常通り使用できます。



このボックスを使用して、プレビュー中のキャビネットをコンピュータからCaptor Xに転送できます。（ユニットにメモリスロットが空いている場合）

所有していないキャビネットをプレビューする場合、ランダムに無音が挿入され、キャビネットのプレビューには1つのマイクしか使用できません。



プレビューしたキャビネットをストアカートに追加するには、プラス記号付きのカートアイコンをクリックします。この操作は任意のキャビネットに対して繰り返し行うことができます。



カートを確認して選択したキャビネットを購入するには、緑色のチェックマーク付きのカートアイコンをクリックすると、オンラインのTwo notesストアに移動します。マイナス記号付きのカートアイコンをクリックすると、現在のキャビネットをカートから削除できます。

安全のため、Remoteでは支払い情報や決済方法に関する情報は保存されません。

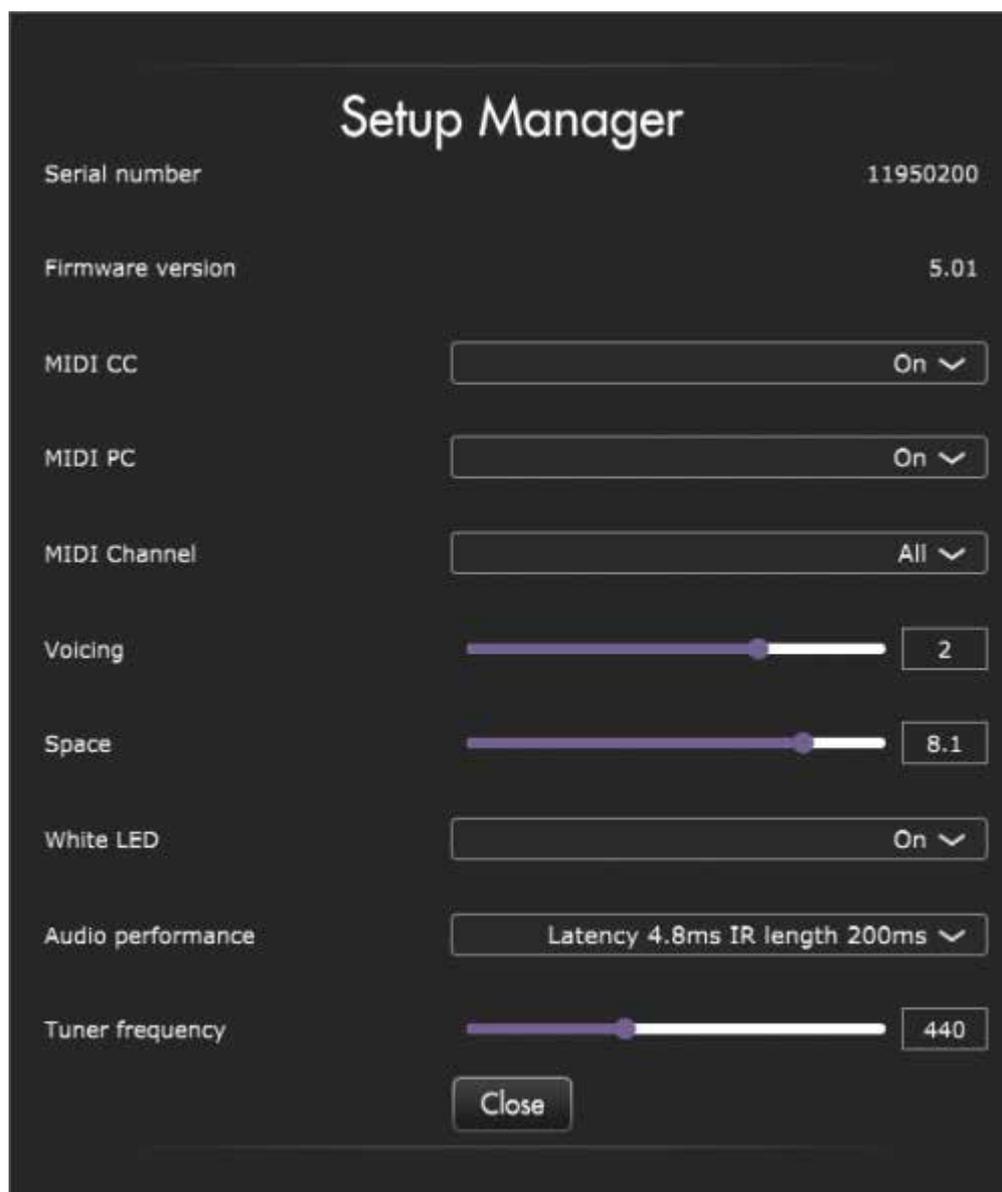
5.2 .turファイル

.turファイルは、Two notes Audio EngineeringのTorpedo BlendIRソフトウェアで作成された独自のファイル形式です。このソフトウェアは、Two notes Audio Engineeringのウェブサイトからダウンロードできます。Torpedo BlendIRを使用することで、Torpedoテクノロジーを活用し、あなた自身のキャビネットとマイクの音響特性を詳細にキャプチャできます。

ファイルをTorpedoにロードするには、デフォルトのインパルスディレクトリに配置するか、Torpedo Remoteを通じてファイルが保存されているディレクトリを選択します（メニューから設定可能です）。その後、Memory Managerを通じてファイルをTorpedoにロードするか、Remoteのメインウィンドウから直接聴くことができます。

.turファイルでは、マイクの位置調整パラメータにアクセスできないことに注意してください。

セットアップマネージャー



Torpedo Remoteのこのセクションでは、ユニットのオーディオレイテンシー、MIDIマッピング、ホワイトLEDなどのハードウェアパラメータを設定します。ここには、ユニットのシリアル番号やファームウェアバージョンも表示されます。また、チューナーの基準点を設定することもできます。デフォルトでは440Hzに設定されています。

1. MIDI

Torpedo Captor Xは、プリセット変更コマンド（プログラムチェンジまたはPC）とパラメータ変更コマンド（コントロールチェンジまたはCC）の両方を処理します。これにより、MIDIペダルボードやキーボードなど、標準的なMIDIコントローラーからユニットのすべてのパラメータを操作できます。

1. ユニットがプログラムチェンジおよび/またはコントロールチェンジコマンドを受信するかどうかを選択します。たとえば、プリセット切り替え（PC）を使用する予定の場合、CCの受信はオフにしておくことができます。

5.ユニットが受信するMIDIチャンネルを設定します。どのチャンネルでコマンドが送信されるか不明な場合は、すべてのチャンネルを受信するように設定するのが便利です。

6.MIDIモニターを使用して、Torpedo Captor Xがコマンドを正しく受信しているか確認します。

プログラムチェンジとコマンドチェンジに関する表については、セクション7.1「MIDIマッピング」を参照してください。

2. オーディオパフォーマンス

指定されたレイテンシーは、入力から出力までのデバイス全体の実際のレイテンシーを示しています。最高の設定でも、演奏時に気づかれないほどレイテンシーは低いです。しかし、複数のデジタル製品を使用すると、レイテンシーが累積し、目立つようになる場合があります。その場合、この設定を下げるのが有効です。

- IR長さ20msでのレイテンシー:1.2ms
- IR長さ40msでのレイテンシー:2.2ms
- IR長さ100msでのレイテンシー:3.5ms
- IR長さ200msでのレイテンシー:4.8ms

インピーダンス選択ガイド

「アンプ+Torpedo Captor X+スピーカーキャビネット」という組み合わせの実効インピーダンス（つまり、アンプが実際に見るインピーダンス）は、VOLUME LEVELスイッチの位置に依存します：

私の状況	ボリューム・レベルの設定	アンプが見るインピーダンス
スピーカー・キャビネットをSPEAKER出力に接続している	ボリューム・レベルをLOWポジションとハーフウェイポジションに設定	キャプターXのインピーダンス
スピーカー・キャビネットをSPEAKER出力に接続している	ボリューム・レベルをFULLポジションに設定	キャビネットのインピーダンス

マニュアル全体で暗示されているように、アンプとCaptor Xのインピーダンスが一致している（アンプのスピーカー出力をCaptor Xに接続している）場合、そのセットアップでは、VOLUME LEVELスイッチがFULL位置にあるとき、キャビネットのインピーダンスがCaptor Xと異なる場合、インピーダンスの不一致が発生します。

もしアンプと負荷のインピーダンスを一致させたい、または一致させる必要がある場合は、次のことをお勧めします：

- 小さな不一致（例：4対8、8対16）を選んでください。2対8や16、4対16のような大きな不一致は避けてください。
- まず低レベルでアンプを使用し、アンプの挙動、出力されるトーン、出力チューブの色を監視してください。何か異常があると感じたら、演奏を中止してください。

要するに、Torpedo製品のユーザーマニュアルにある「真空管アンプとロードボックスの適切な使用に関する推奨事項」をより注意深く従うことが必要です。

このインピーダンスミスマッチに関する記事では、このマッチをできるだけ安全に行うためのすべての注意事項を説明しています。

トランジスタ (ソリッドステート) アンプは異なる設計をしており、通常「最小負荷」定格を持っているため、正確なインピーダンスマッチを期待しません。これは、定格が「8オーム最小」とされているスピーカー出力であれば、8オームまたは16オームの負荷を安全に使用できることを意味します。

重要な注意事項: VOLUME LEVELスイッチがFULL位置にある場合、Captor XのSPEAKER出力にケーブルを接続すると、内部ロードボックスは切断されます。Captor Xに接続されているアンプは、内部ロードボックスではなく、このケーブルの他端に接続されているものに接続されます。そのため、Captor XのSPEAKER出力にケーブルを接続し、他端に何も接続されていない場合、アンプは適切な負荷に接続されなくなります。

仕様について

1. MIDI

1.1 MIDIケーブル

Torpedo Captorには、MIDI 5ピンDINタイプAコネクタからTRSジャック3.5mm (1/8インチ)コネクタへのケーブルが付属しています。このケーブルの配線は、MIDIデバイスでのTRSコネクタの使用に関するMIDI Manufacturers Association (MMA)によって設定された標準に準拠しています。配線は以下の通りです:

- チップはピン番号5に接続
- リングはピン番号4に接続
- スリーブはピン番号2に接続

MMAによって設定された標準に関するすべての情報については、MMAのウェブサイト参照してください。

1.2 プログラムチェンジ (PC)

Torpedo Captor Xの各プリセットには、個別のプログラム番号があります。機器のプリセット001はMIDI PC 1でトリガーされ、MIDI PC 1からMIDI PC 128までで128のプリセットに対応しています。これにより、適切なMIDI PC番号を送信することで、ランダムにプリセットにアクセスすることが可能です。

1.3 コントロールチェンジ (CC)

以下の表には、各パラメータのコントロールチェンジ番号、その範囲、および動作が示されています

パラメーター	CC#	Range	動作
シュミレーションとIRリーダーモード			
キャビ/マイク			
On/Off	6	0-1	0 = Off ; 1 = On
Unused	7	0-1	0 = Off ; 1 = On
Cab	8	0-x	0 = Cab #0 ; 1 = Cab #1…
File A	9	0-x	0 = File #0 ; 1 = File #1…
File B	10	0-x	0 = File #0 ; 1 = File #1…
Folder A	11	0-3	0= User 0 ; 1= User1; 2 = User 2 ; 3 = User 3
Folder B	12	0-3	0= User 0 ; 1= User1; 2 = User 2 ; 3 = User 3
Mic A	13	0-7	0 = Mic #1 ; 1 = Mic #1…
Distance A	14	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Center A	15	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Position A	16	0-1	0 = Back : 1 = Front
Level A	35	0-107	0 = -95dB ; 95 = 0dB ; 107 = 12dB
Phase A	36	0-1	0 = Normal ; 1 = Invert
Mute A	37	0-1	0 = Off (no mute) ; 1 = On (mute)
Mic B	38	0-7	0 = Mic #1 ; 1 = Mic #1…
Distance B	39	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Center B	40	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Position B	41	0-1	0 = Back : 1 = Front
Level B	42	0-107	0 = -95dB ; 95 = 0dB ; 107 = 12dB
Phase B	43	0-1	0 = Normal ; 1 = Invert
Mute B	44	0-1	0 = Off (no mute) ; 1 = On (mute)
Bypass A	51	0-1	0 = Off (Mic on) ; 1 = On (Mic Bypass)
Bypass B	52	0-1	0 = Off (Mic on) ; 1 = On (Mic Bypass)
EQ			
On/Off	17	0-1	0 = Off ; 1 = On
Mode	18	0-2	0 = Guitar ; 1 = Bass ; 2 = Custom
Gain: Low	19	0-40	0 = -20dB ; 20 = 0dB ; 40 = 20dB
Gain: Low Mid	20	0-40	0 = -20dB ; 20 = 0dB ; 40 = 20dB
Gain: Mid	21	0-40	0 = -20dB ; 20 = 0dB ; 40 = 20dB
Gain: High Mid	22	0-40	0 = -20dB ; 20 = 0dB ; 40 = 20dB
Gain: High	23	0-40	0 = -20dB ; 20 = 0dB ; 40 = 20dB
Freq: Low Cut	45	0-127	Specific mapping to Hz
Freq: Low	46	0-127	Specific mapping to Hz
Freq: Low Mid	47	0-127	Specific mapping to Hz
Freq: Mid	48	0-127	Specific mapping to Hz
Freq: High Mid	49	0-127	Specific mapping to Hz
Freq: High	50	0-127	Specific mapping to Hz
Level			
Preset Level	24	0-107	0 = -95dB ; 107 = +12dB
Preset Level R	86	0-107	0 = -95dB ; 107 = +12dB

パラメーター	CC#	Range	動作
Reverb			
On/Off	25	0-1	0 = Off ; 1 = On
Preset	26	0-7	0 = Room #0 ; 1 = Room #1...
Dry/Wet	27	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Dry/Wet R	72	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Size	53	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Echo	54	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Color	55	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Type	56	0-1	0 = Room ; 1 = Ambience
Width	57	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Noise Gate			
On/Off	58	0-1	0 = Off ; 1 = On
Mode	59	0-1	Soft = Off ; Hard = On
Threshold	60	0-80	0 = -80dB ; 80 = 0dB
Enhancer			
On/Off	61	0-1	0 = Off ; 1 = On
Instrument	62	0-1	0 = Guitar ; 1 = Bass
Body	63	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Thickness	44	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Brilliance	65	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Dry/Wet	66	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Twin Tracker			
On/Off	67	0-1	0 = Off ; 1 = On
Tightness	68	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Balance	69	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Output			
Mode	70	0-2	0 = Stereo ; 1 = Dual Mono ; 2 = Dual Mono, R Bypass)
Space Pot Assign	71	0-1	Stereo: 0 = Stereo Expander ; 1 = Dry/Wet Dual Mono: 0 = Dry/Wet ; 1 = Dry/Wet L ; 2 = Dry/Wet R Dual Mono, R Bypass: 0 = Dry/Wet
EQ R			
On/Off	73	0-1	0 = Off ; 1 = On
Mode	74	0-2	0 = Guitar ; 1 = Bass ; 2 = Custom
Gain: Low	75	0-40	0 = -20dB ; 20 = 0dB ; 40 = 20dB
Gain: Low Mid	76	0-40	0 = -20dB ; 20 = 0dB ; 40 = 20dB
Gain: Mid	77	0-40	0 = -20dB ; 20 = 0dB ; 40 = 20dB
Gain: High Mid	78	0-40	0 = -20dB ; 20 = 0dB ; 40 = 20dB
Gain: High	79	0-40	0 = -20dB ; 20 = 0dB ; 40 = 20dB
Freq: Low Cut	80	0-127	Specific mapping to Hz
Freq: Low	81	0-127	Specific mapping to Hz
Freq: Low Mid	82	0-127	Specific mapping to Hz
Freq: Mid	83	0-127	Specific mapping to Hz
Freq: High Mid	84	0-127	Specific mapping to Hz
Freq: High	85	0-127	Specific mapping to Hz
General - Preset			

パラメーター	CC#	Range	動作
Mode	34	0-2	0 or 1 = Simulation ; 2 = IR Loader
General			
Out Level	87	0-107	0 = -95dB ; 95 = 0dB ; 107 = 12dB
Mute	88	0-1	0 = Off (no mute) ; 1 = On (mute)
Bypass	89	0-1	0 = Bypass ; 1 = On
Preset	90	0-127	0 = Preset #1 ; 1 = Preset #2...
Voicing	91	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
Space	92	0-127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%

2. 付属キャビネット一覧

名称	インスパイアモデル
ギターキャビネット	
Angl Pro30	Engl® 4×12 Celestion® Vintage 30
Angl VintC	Engl® 4×12
BdeLuxe	Fender® Blues Deluxe
Brit 65O	Marshall® 1965A 4×10 Celestion® G10L-35 open back
Brit VintC	Marshall® Slash Signature 4×12 with Celestion® V30
Calif StdC	Mesa/Boogie® Rectifier® Standard 4×12 Celestion® V30 closed back
Eddie	Peavey® 5150 2×12 Sheffield 1200
Eggbeater	Egnater® Tourmaster cabinet
FastBack	4×12 cabinet with Celestion® Pre-Rola G12M Greenback
Forest	Elmwood® 2×12 cabinet with Celestion® V30
Free Rock2	VHT® Deliverance 2×12 Eminence® P50E
GreenArtC	Marshall® 4×12 for JMP Amplifier
GreenTri	Hughes&Kettner® Triamp 4×12 with Celestion® Greenback
Jazz120	Vintage Roland® JC120 2×12"
JubilGreen	Marshall® 2556AV 2×12 Celestion® Greenback
Kerozen	Diezel® 4×12" Celestion® G12K-100
RackHeroJP	Custom Audio Amplifier 2×12 with Celestion® G12T-75
Rand NB412	Randall® Signature Series 4×12 angled with Celestion® Greenback
SilverJen	Fender® Twin Reverb® 2×12 with Jensen® speakers
StrongBack	VHT® Fat Bottom series cabinet P50E speaker
Tanger 30C	PPC112HP© 1×12 Orange® with Celestion® Vintage 30
The One	Brunetti® Neo1512 1×15" + 1×12"
Vibro V30	Vintage 1961 Fender® Vibrolux® 1×12 Celestion® V30
Voice 30	Original Vox® AC30 JMI 2×12 Celestion® "Silver Bell"
Watt FanC	Hiwatt® 2×12 Fane closed back
XTCab	Bogner® 4×12" Celestion® V30
ベースキャビネット	
AluXL	Hartke® XL 4×10"
Bull Neo2	2×10" cabinet

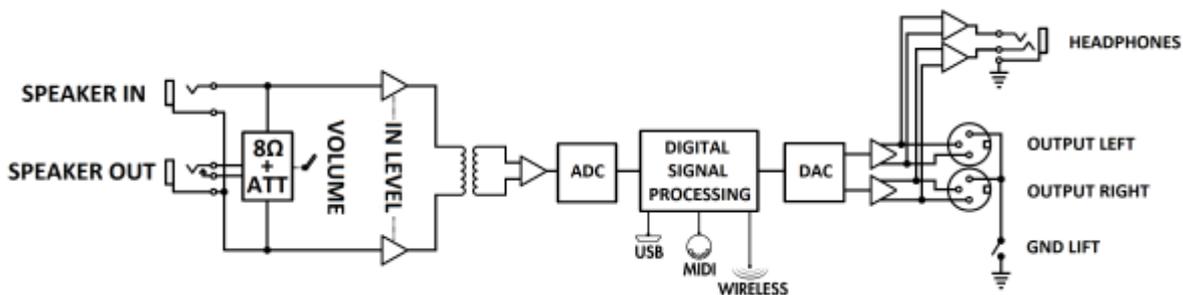
Fridge9	Ampeg® 9×10"
Heaven Top	David Eden® 4×10 Markbass® 2×10
Marco	Markbass® 2×10
New York	Markbass® 4×6"

3. マイク一覧

Two notesライブラリーの各キャビネットには、完璧にマッチした8本のマイクが付属しています。マイクの実選はキャビネットのタイプやモデルによって異なり、それぞれ最大限のレスポンスと音色のクオリティを得るために慎重に選別されています。あなたのギタートーンにベースマイクを、あなたのベーストーンにギターマイクを試すことを恐れないでやってみてください。

Designation	Inspired by
Dynamic 57	ダイナミックマイクロホン Shure® SM57
Dynamic 421	ダイナミックマイクロホン
Knightfall	コンデンサーマイクロホン Blue® Dragonfly
Condenser 87	コンデンサーマイクロホン Neumann® U87
Ribbon160	リボンマイクロホン Beyerdynamic® M160N
Ribbon121	リボンマイクロホン Royer® R121
Bass 20	ダイナミックマイクロホン Electrovoice® RE20
Bass 52	ダイナミックマイクロホン Shure® Beta52

4. ブロック図



5. 技術データ

名称	特性
SPEAKER IN	6.35mm (1/4 in) ジャックアンバランス (TS, チップ/スリーブ) IN LEVEL スイッチは入力感度に影響します High: 0 dB Low: -15 dB
SPEAKER OUT	6.35mm (1/4 in) ジャックアンバランス (TS)
LEFT/RIGHT OUTPUTS	XLR バランス 最大出力レベル: 15 dBu.インピーダンス : 600 オーム

名称	特性
PHONES	6.3 mm (1/4インチ) ジャックバランスTRS、チップ/リング/スリーブ)
MIDI入力	1/8" ジャックバランスTRS。ジャック-MIDIケーブル・アダプター付属
USB	Micro USB Bポート。Micro USB-B から USB-Aのケーブル付属。
ADC/DAC	サンプリング周波数: 96 kHz 解像度: 24 ビット
周波数応答	30 Hz - 19 kHz
最小レイテンシー	2.2 ms (LINE IN to LINE OUT)
THD+N 比	0.03% (IN LEVEL 0dB, 正弦波 1kHz 4dBu)
信号対ノイズ比	95dB
電源	100-240v AC / 出力 : DC12V 1A 供給
寸法	128 (w) ×175 (d) ×64 (h) mm 重量 1.3kg

テクニカルサポート

テクニカルサポート

Two notes Audio Engineeringでは、迅速かつ効率的なテクニカルサポートを提供するため、オンラインサービス「Two notesヘルプデスク」をご用意しています。
また、Two notes製品に関するご質問やサポートが必要な場合は、お気軽にナレッジベースをご覧ください。

1. Two notes Website

Two notes Audio Engineeringのウェブサイトでは、以下の情報がご覧頂けます。:

- ・会社や製品に関するニュース (トップページのニュースセクション)
- ・Torpedo Captor Xとその多くのアプリケーションに関する包括的な情報 (FAQ)、
- ・ファームウェアやソフトウェアのアップデート (<https://www.two-notes.com/en/downloads/>)

Two notesストアへのアクセスすると新しいキャビネットの購入が可能です。
また、公式フォーラムでは他のTorpedoユーザーとヒントやアドバイスを共有できます。

ユーザーをサポートするために、Two notesスタッフは専門フォーラムにも頻繁に訪れています。

ソーシャルメディア

最新のアップデートや製品ニュースをいち早く入手するために、Facebook、Instagram (@twonotesaudio)、Twitter (@twonotesaudio)をフォローしてください。
(新しいキャビネットを常にリリースしています)

Two notes 機材を使った写真を共有して下さるのを楽しみにしています。投稿の際には、
#mytwonotes ハッシュタグを付けていただければ、私たちが注目します!
また、Facebookには非常に役立つコミュニティグループがあり、私たちや多くのお客様が集まって
アイデアを共有したり、ガス (GAS: Gear Acquisition Syndrome、機材購入欲) を高めたりして
います。ぜひご参加ください。

新製品やリリース情報をいち早く受け取るために、ニュースレターの購読もお忘れなく。一般公開前
にお知らせします!

2. Eメール

Two notesでは、Eメールによる技術サポートは提供しておりません。下記のURLにあるヘルプデ
スクを通じてお問い合わせください。パーマネントリンク

From:v3
<https://wiki.two-notes.com/> - **User's manuals**

Permanent link:
https://wiki.two-notes.com/doku.php?id=torpedo_captor_x:torpedo_captor_x_user_s_manual

Last update: **2024/07/10 16:18**

